



Andalucía

Guía de

Andalucía



JUNTA DE ANDALUCÍA
COMISERÍA DE TURISMO, COMERCIO Y DEPORTE

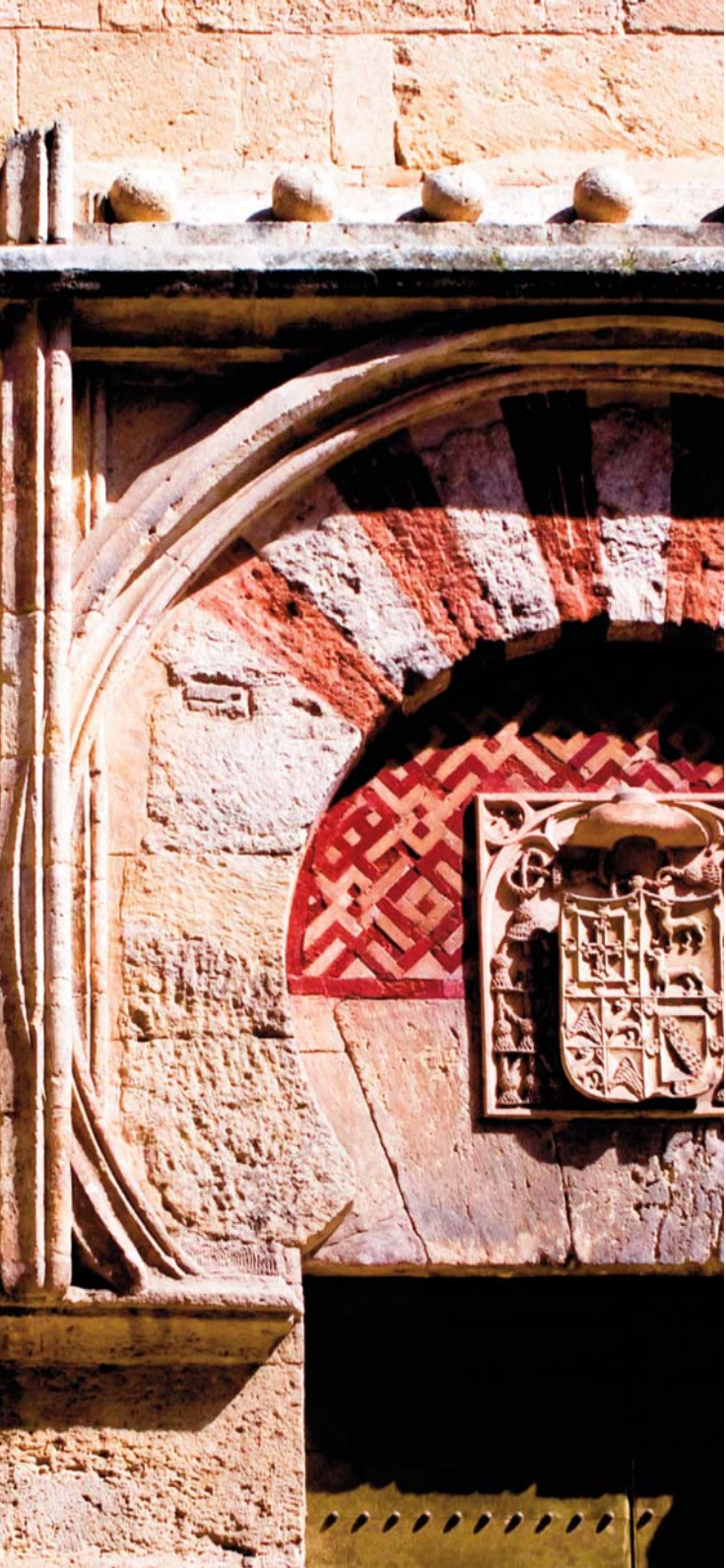
日本語 | Japonés

Guía de Andalucía



JUNTA DE ANDALUCÍA

CONSEJERÍA DE TURISMO, COMERCIO Y DEPORTE



	アンダルシア	2
	コントラストの地	6
	芸術と文化	8
	ルート	10
	海岸	12
	ゴルフ	14
	料理	16
	フラメンコと伝統	18
	祭り	20
	手工芸	22
	自然	24
	カントリー・ツーリズム	26
	アクティブ・ツーリズム	28
	ALMERÍA	30
	CÁDIZ	44
	CÓRDOBA	58
	GRANADA	72
	HUELVA	86
	JAÉN	100
	MÁLAGA	114
	SEVILLA	128
	アンダルシア州ツーリズムオフィス	142

編集: Junta de Andalucía. Consejería de Turismo
 Comercio y Deporte. Turismo Andaluz, S.A.
 C/ Compañía, 40. 29008 Málaga.
 Tel.: 951 299 300 Fax: 951 299 315
www.andalucia.org
 D.L.: SE
 デザイン製作: www.edantur.com
 印刷物: Tecnographic, s.l.

アンダルシアへようこそ

アンダルシアは世界の主要な人気観光市場のひとつとして世界中から観光客が訪れています。恵まれた気候や、変化に富んだ風景、奥深い歴史を物語るモニュメントの数々や世界に誇る美しい建物や町の景観などによって世界遺産に登録されました。ここにはヨーロッパのなかでも非常に広い面積を占める自然保護地域があります。そして底抜けに明るく楽しいアンダルシア人の性格を反映するアンダルシア独特の祭りや、最高品質の食材を吟味した世界に名高いアンダルシア料理などがアンダルシアをおとずれる人たちにとり特別に思い出深い場所として魅了するでしょう。どうぞいらしてください、私たちとお知り合いになり、一緒に楽しんでください。









コントラストの地



アフリカとヨーロッパを結ぶ橋の役目を持ち、大西洋と地中海が会う場所でもあるアンダルシアは、西部はポルトガルと国境を接し、北西部はエストレマドゥラ州、北部はカスティーリャ・ラマンチャ州、東部はムルシア州と接しています。アンダルシア州はスペイン全国の17,3%の面積を占めていて、ベルギ、オランダ、デンマーク、オーストリアなどの国より広い面積を持っています。

アンダルシアはヨーロッパの暖かい気候の地域にあります。日照時間は年間3000時間を超え、年間平均気温が16度前後ですから観光地として高い評価を受けています。



そのような気候や土地の起伏によって変化に富む景観がコントラストを生み出しています。温暖なグアダルキビル川渓谷から木が生い茂る山並みまで、そしてヨーロッパで唯一のタベルナス砂漠や未開の広大な砂浜、雪に覆われた白いシエラ・ネバダ山の頂上など様々な形態を持つ自然があります。

アンダルシアを代表するグアダルキビル川はイスラム教徒が「大きい川」と呼んだのが始まりで、名前の由来となった豊沃な渓谷を形作り、支流のヘニル川とともにアンダルシアの主軸となっています。

芸術と文化



先史時代に人が住み始めた長い歴史を持つアンダルシア州全域にわたり豊富な芸術遺産が残っています。そのなかで世界遺産に登録されているのは、グラナダのアルハンブラ宮殿、ヘネラリーフェ、アルバイシン；セビーリャのアルカーサル、カテドラル、アルチボ・デ・インディアス総文書館；コルドバのメスキータと歴史的な中心街；ウベダとバエサのルネッサンス様式市街地です。





当地はベラスケス、ムリーリョ、ロルカ、アルベルティ、フアン・ラモン・ヒメネス、ピカソなど芸術家や作家の巨匠が生まれたところです。加えて当地方にはムセオ・ピカソ・デ・マラガ、ムセオ・デ・ベジヤス・アルテス・デ・セビーリャ、コルドバのムセオ・フリオ・ロメロ・デ・トーレス、ムセオ・デ・ラ・アルハンプラなどスペイン国内でも有数の立派な美術館があります。

次のような映画や音楽、バレエなどの文化イベントが催されています。フェスティバル・デ・シネ・デ・マラガ、ビエナール・フラメンカ・デ・セビーリャ、フェスティバル・デ・シネ・イベロアメリカーノ・デ・ウエルバ、グラナダ、クエバス・デ・ネルハ、ビジャブランカ（ウエルバ）で開催されるフェスティバル・インテルナシオナル・デ・ムシカ・イ・ダンサなどです。

ルート



アンダルシア州には自然と触れ合うルートや文化を楽しむルートがあり、豊富な文化財を知っていただくことができます。アンダルシア州8県にはイスラム教徒が支配した時代の歴史的遺産が残されていてレガード・アンダルシー（イスラム教徒遺産ルート）と呼んでいます：コルドバとグラナダを結ぶルタ・デ・カリファト、アメリカ人の外交官でロマンティックな作家が通った道筋を追うセビーリャとグラナダ間のワシントン・アービングルート、そしてイスラム教徒支配時代末期に繁栄した町を通るハエンとグラナダを結ぶルタ・デ・ナサリーエス（ナスリ王朝ルート）があります。

ローマ時代の足跡をたどるならカディスとセビーリャ



とコルドバ県を通るルタ・ベティ・ロマーナをおすすめします。セビーリャとコルドバには19世紀に活躍したアンダルシア人の有名な山賊の名前を取ったルタ・デル・テンプラニージョもあります。

そのほかに、自然保護地帯を蛇行するビーアス・ベルデス、センドロGR-7などの多数の行程をたどって自然環境と友達になるチャンスを失わないこともまたたいせつです。





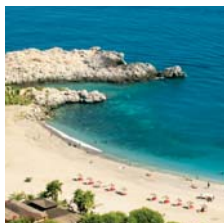
海岸

アンダルシア沿岸は個性的な自然環境に恵まれ、約900キロにわたって伸びていて、沿岸べりの61の市町村は無数の海岸（540キロ）のおかげでレベルの高い生活をしています。

変化に富んだアンダルシア州の代表的な海岸を5ヵ所ご紹介しましょう。銀色の細かい砂の（ウエルバ県側とカディス県側の）コスタ・デ・ラ・ルス、有名なコス・デル・ソル（マラガ）、グラナダの暖かいコスタ・トロピカル、未開の砂浜コスタ・デ・アルメリアです。



海水の質や環境価値、輝く太陽
などのおかげでこれらの海岸（多
くの海岸がブルーフラッグを掲げ
る）は全世界の観光客の方から愛
されています。





ゴルフ

アンダルシアには現在114のゴルフ場があり、国内の他州と比較すると最多の数を誇っています。ゴルファーの皆様からアンダルシアが最高レベルだと言われるゆえんは、その恵まれた気候に負うところが大きく、年間を通じてプレーできることと、地形的条件がゴルフ場デザイナーにとって経験とイメージを反映させるのに大変有利な自然の条件を備えているからです。

アンダルシアのゴルフ場の多様性はそのホール数によるだけではなく、設計や立地条件によってプロゴルファーたちが多彩な景色の中で海や山を背景にしてプレーできるようになっています。

この素晴らしい要素によってトップレベルの国際コンペのオーガナイザーをアンダルシアに目を向けさせることとなり、オープン・デ・エスパーニャ、ボルボ・マスターズ・アンダルシア、ザ・ワールド・チャンピオンシップ、ライダー・カップなどの開催地に選ばれています。





料理

アンダルシア料理は地中海料理が基本の美味しくて健康的な料理ですから全感覚を最高に満足させます。

最高品質の材料を生かし、オリーブオイルをベースとして新鮮な海や山の幸を調理し選び抜いた最高の料理を試してください。この地方には六つの原産地呼称があるワインも負けてはいません。シェリーとして世界的に有名なヘレスと同種のサンルーカルで生産されるマンサニーリャもぜひお勧めします。

アンダルシア料理として世界中で最も知名度が高いのは、栄養価値が高く簡単に作れる冷たいスープ、ガスパッチョです。トマト、きゅう、ピーマン、にんにく、オリーブオイル、酢で作ります、ほかにもサルモ





レッホ、ポッラ、アホブランコなどのバリエーションがあります。

食の花形ハモン・デ・ラ・シエラ・デ・ウエルバの生ハムを始めとしてチーズ（強い個性的な）や、今でも修道院で作っているイスラム支配時代の味をそのまま伝える菓子類もご賞味ください。





フラメンコと 伝統

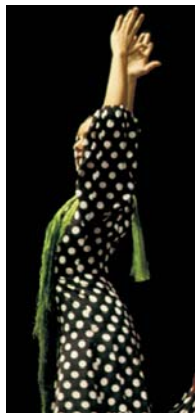
フラメンコはアンダルシア最高の文化財であり真髄を現すもので（カンテス・バシコス、ミネラ、デ・ウエルバとファンダンゴ、グランデス・フィグーラスなど）ルタス・テマティカスと呼ぶルートの由来となりました。

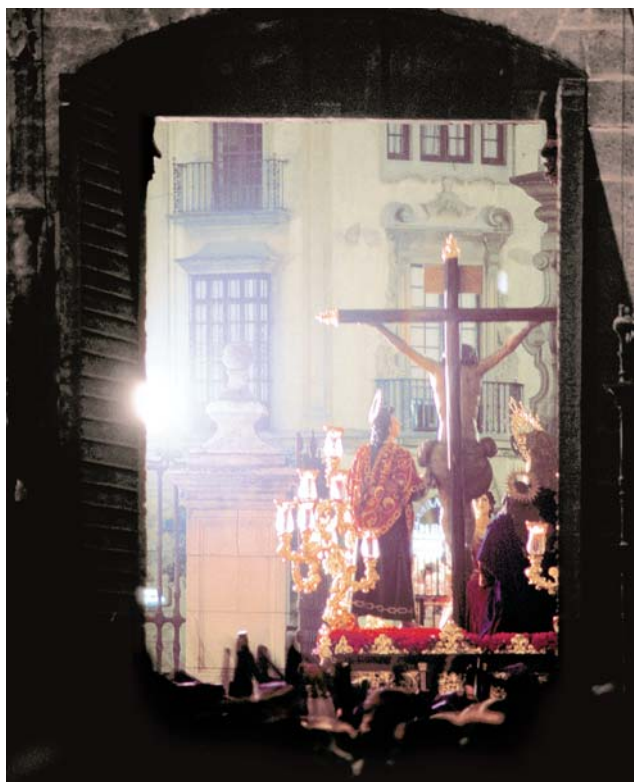
アンダルシア出身の「カンテ・ホンド」のトップレベルの歌手がいます。とくにサン・フェルナンド生れのホセ・モンヘ「カマロ・デ・イスラ」は、彼独自のスタイ



ルでフラメンコ界に革命を起こし、後継者への道を開くことになりました。

馬と牛の世界はアンダルシアの特異性と切り離せない関係にあります。ヘレス・デ・ラ・フロンテラはカルトゥハーノ（アンダルシア種）馬の産地でもあり、優れた闘牛用牛の牧場もあります。またロンダとセビーリャはペドロ・ロメロとペペ・イージョという独自の闘牛スタイルを生み出した家系に始まり、フアン・ベルモンテ、ホセリート、マノレッテ、パキーリ、クーロ・ロメロのような優秀な闘牛士を生み出しました。





祭り

アンダルシアの祭りのカレンダーはその地理と同様に変化に富んでいます。大勢が集まるロメリーア（ウエバのエル・ロシーオ、ハエンのビルヘン・デ・ラ・カベッサ）、情熱と力が溢れるセマナ・サンタ、カーニバル、クルセス・デ・マイヨ、叙情的な闘牛の午後を過ごすフェリアなど盛り沢山です。

多彩な祭りや記念行事は郷土の芸術と習慣を百科事典にまとめたようなものです。春祭り、種まきと収穫の祭り、聖人聖女の祭り、フェリア、ぶどうの収穫祭、夜祭



り、ロメリーア巡礼祭りなどがあり、郷土民芸、料理、音楽、信仰などを見るときとても良い機会です。

3000を数える当地の祭りの時こそ、アンダルシア人の楽しくて外向的な性格が最高に発揮されます。カディスのカルナバル、マラガのセマナ・サンタ、ヘレスのフェリア・デ・カバージョス、サンルーカル・デ・バラメダ海岸のビーチ競馬などは国際観光行事に指定されています。



手工芸



アンダルシアの手工芸品は国内外ともに有名です。ウブリケ（カデイス）の皮革製品、コルドバが誇る銀製、アルメリアのハラパじゅうたん、そしてグラナダのアルカイセリーアでは民芸の絹製品を売る店が並び、セビーリャでは今でも刺繍の美しいショール、マントーネス・デ・マニラを製作しています。

手工芸品のなかでも陶器と製陶はアンダルシア全体で今でも盛んです。セビーリャのトゥリアナ焼き、コルドバのルセーナ焼き、ラ・ランブラ焼き、グラナダの伝統



的なファハラウサ焼き、アルメリアではニーハル、ベラなどの村の陶芸、そしてハエンではバイレンとアンドウハルの陶器があります。

ほかにも家具、植物繊維細工、製本、石と大理石の工芸品や（職人リュティエーが作る有名な）楽器があります。

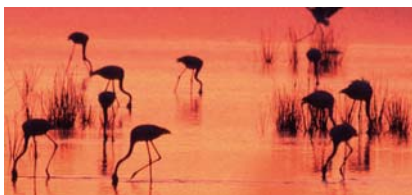
自然

アンダルシアの面積の18%が広々とした自然保護地帯（80ヶ所以上）に指定されていることから、環境保護においてはスペイン全国のトップの地位にあります。

この豊かな自然は24の自然公園のなかにあり、山と林（シエラ・デ・グラサレマやシエラ・デ・ラス・ニエベスに自生するもみの一種であるピンサポは植物学上の宝物）の中に息づき、沿岸地帯ではカボ・デ・ガタ〜ニーハル自然公園などがあります。

この中でもエコロジ的に大変重要なエスパシオ・ナトゥラル・デ・ドニャナ国立自然公園（イベリア・オオヤマネコの残存地域）とパルケ・ナショナル・デ・シエ





・ネバーダ国立公園（イベリア半島内で最高峰がある）は生物圏保護区に指定されています。

アンダルシアの地図のなかに28ヶ所のレセルバ（自然保護区）と31ヶ所のパラッヘ（自然地帯）があります。公園より小さい面積の自然保護区は植物や動物、特に鳥類にとって生きていく上に大切な水が豊富な場所にあります。一方自然地帯は変化に富んだ風景が美しいところ。

クエバ・デ・ネルハ、グルータ・デ・ラス・マラビーリャス、インフィエルノ・デ・ロッハなどは天然の洞窟です

カントリー・ツーリズム



アンダルシアは、恵まれた自然環境と独特の雰囲気を持つ村や町、根付いた伝統などによってカントリー・ツーリズムの目的地として大変人気があります。たとえば、カディスのプエブロス・ブランコス（白い村）、マラガのセラニーア・デ・ロンダ、グラナダとアルメリアのアルプハッラス、ウエルバのシエラ・デ・アラセナなどです。

アンダルシアの田舎の魅力と言えば、自然の風景の中にぴたりと納まった民家の建物や、根付いた伝統、先祖伝来の祭り、そして現地で採れる新鮮な食材を使った美味しい料理などに代表されます。



そして自然と触れ合いながら多種多様な活動ができるアクティブ・ツーリズムが楽しめるのもアンダルシアの田舎で過ごす魅力のひとつでしょう。





アクティブ・ツーリズム

アンダルシアの自然に囲まれて色々な活動ができるアクティブ・ツーリズムをお楽しみください。たとえばハイキング、トレッキング、ロッククライミング、洞窟探検、登山、滝すべり、パラグライダー、ハンググライダー、乗馬、ハンティング、フィッシング、ダイビング、サーフィン、スキーなど多種多様なレジャーが楽しめます。

アンダルシアの8県にはハイレベルの競技施設が揃っ





ていますから、スポーツファンには大変魅力があるところ
です。素晴らしく整備されたインフラのおかげで良く
知られている多数のスポーツ競技国際大会の開催場所
になっています。シエラ・ネバダのスキー場、ヘレスのサ
ーキット、アンダルシアに散らばる無数のゴルフ場、特
にコスタ・デル・ソル（ヨーロッパ全体の中でもゴルフ
場が最も集中しているところ）、39ヶ所もあるヨット
ハーバー、中でもマラガのプエルト・バヌスはとくに有
名です。





Almería

Almería







アンダルシア州のなかで地中海に面しているのはムルシアとグラナダと県境を接している東部にあるアルメリア県です。アルメリアとのコミュニケーションは空と海（アルメリア空港とアルメリア港）から、陸からは沿岸部を走るA-7高速道路と、A-92（及びバイパスA-92N）が州内のあらゆる道路と結ばれています。

気候は地理的条件に従い温暖で風は心地よい暖かさです。夏の気候が長続きしますから年間を通じて気温は穏やかで気持ちよく、長時間の日照時間によって太陽と海岸を楽しむツーリズムに最適です。



景観

コントラストに富む景観の地だということを明確にしているのは、頂上に白雪を抱くシエラ・ネバダ山からヨーロッパ唯一の砂漠、デシエルト・デ・タベルナスまで、そして沿岸部の切り立つ断崖と海岸、内陸部の植物の生い茂る山並みなどが一望できます。これら自然の景観はエコロジー的に見て大変重要な役割を果たしています。

自然公園にはシエラ・ネバダ、シエラ・マリア・ロス・ベレース、カボ・デ・ガタ〜ニーハル（イベリア半島初の陸地にある海の公園）やアンダルシア最西部のパルケ・ナショナル・デ・シエラ・ネバダがあります。沿岸部に

映画について。気候条件がすばらしく変化に富んだ景観によってアルメリア県は大型映画製作のシーンとなりました。リズ・テラー主演の「クレオパトラ」「アラビアのローレンス」「パットン」スティーブン・スピルバーグの「インディアナ・ジョーンズ」「ネバーセイネバーアゲイン」などのロケ地となりました。セルジオ・レオーネ監督の手によるウエスタン映画製作は映画史上画期的な出来事でした。ポプラードス・デル・オエステと呼ばれた当時のウエスタン村は今でもタベルナスで見学できます。



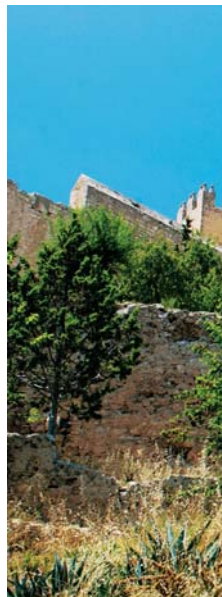


カルスト・エン・イエソス・デ・ソルバ。カルストの造形が素晴らしくヨーロッパでも貴重な場所とされています。アグアス川が石膏を含んだ広い一帯を流れています。そして井戸や地下道を掘り下げて鍾乳石や石筍（せきじゅん）によって生まれた大きい洞窟に川の水が流れ込むようになりました。ケービングを趣味に持つ人はクエバ・デル・アグアやクエバ・デ・ラ・コバドゥーラ（前もって許可を取る必要があります）の洞窟探検が楽しめます。

は貴重なエコシステムを持つ生物圏保護区や自然地帯があり、その例としてプンタ・エンティーナス-サビナールやラス・アルブフェラス・デ・アドゥラ自然地帯があります。アルボランの自然地帯のシエラ・アラミーリャ山やデシエルト・デ・タベルナス砂漠などもアルメリア県の環境遺産です。ほかにもアレシフェ・バレーラ・デ・ポシドニア、イスラ・デ・サン・アンドレース、イスラ・デ・テレーロス、イスラ・ネグラ、ピエドラ・リベラ、サビナ・アルバールの景観には目を奪われます。

芸術と文化

この地方には考古学上の遺跡が多数あり、大昔から人が住んでいたことを立証しています。ここで皆さまに主要な遺跡をご紹介します。まず先史時代のアブリゴス・プレイストリコス・デ・ロス・ベレスを出発して次はロ





ス・ミリヤーレス（サンタ・フェ・デ・モンドウーハル、エル・アルガール、クエバス・デ・アルマンソーラ洞窟のフェニキア人住居のビリャリーコス、最後にローマ時代の遺跡である（チリベルの）エル・ビリャールへと足を運びましょう。

アルメリア海岸にイスラム教徒が上陸した（7世紀）から中世末期までアルメリアはイスラムの支配下に置かれていました。首都は王国の主要港となり、あちこちにアラブ浴場が建ち、井戸が掘られ、監視塔やアルカサーバ・アルメリエンセやメスキータ・デ・フィニャーナが建てられました。

クエバ・デ・ロス・レトレロス。小さな洞窟マイモン・チコ（ベレス・ブランコ）に1万8千年前の動物と人物像を描いた洞窟画が発見されました。インダロというのは県のシンボルになっていますがこの洞窟画の中の絵に由来するものです。アルメリアとアンダルシア、イベリア半島の地中海沿岸地帯にあるほかの洞窟画とともに1998年世界遺産に登録されました。





キリスト教徒の国土回復はヨーロッパの新しい芸術（ルネッサンス、バロック、新古典主義）の流れを導入させることとなり、教会（ベレ・ルビオのエンカルナションやアルメリアのカテドラルなど）や宮殿や16世紀のベレス・ブランコ城などがイタリア人の建築家に依頼して建造されました。

特に面白い景観は、アルメリア東部にあるシエラ・デ・ガードル独特の産業考古学遺跡です。

海岸と水上スポーツ

アルメリアの沿岸線は全長214キロにおよび、自然保護区の中に広い海水浴場から静寂な入り江もある完璧な

レジャー用沿岸です。

アルメリア西部はブルーフラッグを掲げる海水浴場が多数ある沿岸で、交通網も整い便利な観光施設も整っています。たとえばロケタス・デ・マル、アドラ、エル・エヒードなどです。

様々な顔を持ち起伏のあるアルメリア東部の沿岸部も独自のパーソナリティーを持っています。ブルーフラッグを掲げる（ガルーチャ、ベラ、カルボネラス）のほかにムプラヤ・デ・ロス・ムエルトス、カラ・クリスタル、プラヤッソ・デ・ベラ（ここにはヌーディスト海岸があり、ヨーロッパ中から集まって来ます）などもお勧めです。

アルメリア〜カボ・デ・ガタ〜ニハル周辺には広大な自然公園が広がり、公園内にカラ・デ・ラ・ポラクラ、プラヤ・デ・ロス・ヘノベセス、エル・モンスル、カラ・メディア・ルナなど（すべてニハル内）の未開の砂原が横

ゴルフ。アルメリア県にはスペイン国内の他のゴルフ場と比べてデザインや立地に優れた周辺の風景が面白い上に立派なゴルフ場があります。プラヤス・デ・ベラ、モハーカルからシエラ・ピーカル、バジェ・デル・アルマンソーラなどのゴルフ場です。





たわっています。アルメリア、アグアマルガ、サン・ホセ海岸にもブルーフラッグがはためいています。

広大な沿岸部では水上スポーツが盛んで、8ヶ所の港にヨットハーバーが整備されています。ウインドサーフ、エンセナダ・デ・サンミゲル、エル・エヒード、プラヤ・セレナ（ロケタス・デ・マル）でお楽しみ下さい。ダイビングはカボ・デ・ガタ、レバンテの海岸でいかがでしょう。ところでアクティブ・ツーリズムは沿岸部だけではなく内陸部で快適なスキーが楽しめるシエラ・ネバダやラ・ラグアスキー場（こちらは長距離専用）でも可能ですし、ハンググライダーで空を飛びシエラ・マリア山でロッククライミングに挑んでみませんか。

料理と祭り

カントリー・ツーリズムは今アンダルシアが持つ多彩な顔のおかげで（内陸部の白い村、海岸べりの村々、自然豊かなスペースなど）好調です。多種多様のレジャーとともにアンダルシアの豊かな伝統も楽しんでいただけます。

アルメリア料理は新鮮な魚や魚介類（モラガ、アロセス・マリネロス、エスカベチャド・デ・ペスカード、ミガス・コン・サルディナス）などの沿岸部料理と、モロコ人から伝来したデザート類とともに腸詰や伝統的料理、たとえばグルージョス、ガチャス、アホ・コロラド、オリャ・デ・トゥリゴ



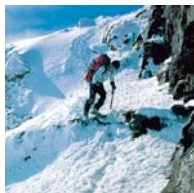
などが郷土料理を代表しています。もちろんアルメリアのオリーブオイルが料理の基本で、「ビーノス・デ・ラ・ティエラ」当地特産のワインを飲みながらいただければ益々料理にアクセントがつくでしょう。

多くの祭りには花火（ノーチェ・デ・サン・フアンの主役）が興を添えます。フィエスタス・デ・モーロス・イ・クリスティアーノスはしっかり根付いた伝統的な祭りです。二つに分かれたライバル同志が繰り広げるアベン・ウマイア朝時代の風変わりなゲームの復元がプルチェナで行われます。このほかの祭りとしてはフェリア・デ・アルメリア、ディア・デ・ラ・クルス、ビルヘン・デル・カルメン（沿岸地方の市町





工芸品。県を代表する工芸は陶芸（ペラ、ニハル、ソルバス、アルボックス、アラビア）、ガラス工芸（アラマ・デ・アルメリア）、イスラ・デ・アルボランの赤サンゴ、ハラパ織物（ニハル、ペハル、ラウハル・デ・アンダラス）そして有名なマカエルの大理石はヨーロッパ諸国にも輸出されています。



村で特に盛大）、ディア・デ・ラ・ビエハ、フエベス・ラルデロなども興味をそそります。

行程

アルメリア～カボ・デ・ガタ～ニハルのルートはアルメリア市とカボ・デ・ガタ～ニハル自然公園やいくつかの未開の海岸と素晴らしい海辺を通るルートです。

アルプハッラ・アルメリエンセルトではアンダルシアの建築というよりアフリカ北部の建築に非常に似た独特な建築物です。昔モーロ人が住んでいたシエラ・ネバダやラ・ラグアの白い村にあります。

同じく田舎の雰囲気をついに保っているのはポニエンテ・アルメリエンセの内陸部です。アグアドウルセからアドラまでの漁村とは異なる雰囲気を持つシエラ・ガードル周辺です。海岸、ゴルフ場、ヨットハーバー、自然のスペースなどがとても魅力的です。

変化に富んだ景観を提供するフィラブレス～シエラ・アラミーリャ～リオ・ナシミアントのルートを行けばシエラ・ネバダの山頂を眺めたあと広大な





デシエルト・デ・タベルナス砂漠に入ります。

イエソス・デ・ソルバスにあるパラッヘ・ナトゥラル・カルストからレバンテ・アルメリエンセに入ります。ここは断崖絶壁が迫り、小さな入り江が見え隠れしていることからヌーディスト海岸があります。

川の名前と同じアルマンソーラ地域の河畔はカントリー・ツーリズムとナチュラル・ツーリズムに浸りたい人にはぴったりの場所で、歴史にあふれた当地の周辺ではトレッキングや洞窟探検が楽しめます。

ロス・ベレスに行くほとんどの行程はパルケ・ナトゥラル・シエラ・マリア〜ロス・ベレス自然公園が占めていて、領主が住んでいた昔の名残を残す村（ベレス・ブランコとベレス・ルビオ）へと導きます。





Cádiz

Cádiz







ヨーロッパの最南端に位置し、ウエルバ、セビーリャ、マラガ県と県境を接しています。南にエストレッチョ・デ・ジブラルタル海峡とアフリカ北部があります。大西洋と地中海の接点でもあり、陸や海（カディス港、アルヘシラス港）空（ヘレスとジブラルタル国際空港）から国内や海外とつながっています。温暖な気候に恵まれ、年間平均気温は18度、年間日照時間は3100時間です。しかしながらシエラ・デ・グラサレマは微気候に覆われていてスペインの最高降雨量を記録しています。



海岸

全長260キロの沿岸線には銀色の砂が輝く80ヶ所以上の海岸が並んでいます。その中でも地中海に面し、タリファからプンタ・チュジェラまで60キロの海岸線を持つコス・デル・ソルとサンルーカルからタリファまで大西洋と接するコスタ・デ・ラ・ルスは多くの観光客が集まるところです。

カディスの海岸の最も魅力的な点は、その野生的なところですが。入り江と未開の砂浜が美しい断崖と自然地帯の間を縫って存在し、ヌーディストたちにとって最適なところです。

たとえばプンタ・カンドル（ロタ）、エル・プエルコ（チクラナ）、カニョス・デ・メカ、サアラ・デ・ロスアトゥネス、（バルバテ）、ラス・カラス・デ・コニル、エル・パルマール・デ・ベヘル、ボロニア、タリファのバルバケロスなどが良い例です。もう少し都市化された場所では、バホ・デ・ギア（サン・ルーカル）、レグラ（チピオナ）、ラ・カレタ・ガディタナ、バルデラグラナ（エル・プエルト）があります。これらの海岸のほとんどがヨーロッパの清潔な海に与えられるブルーフラッグを掲げています。

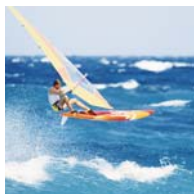


ウインドサーフの王国。素晴らしい気候、理想的な波、年間を通じて吹き渡る東風などによってタリファはサーファーたちの楽園となりました。エンセナダ・デ・バルデバケロスやプラヤ・デ・ロス・ランセスではウインドサーフやカイトサーフ、ボディボード、フライサーフ、ブローカートンの愛好者が集まります。

芸術と文化

タルテッソス人とフェニキア人によって3千年前に設立されたこの町は、その後もヨーロッパとアフリカを結ぶ橋の役目をになう戦略的な位置関係によって多くの人たちを引き付けました。紀元前1100年には西洋で最古の町と知られているガディール（現在のカディス）が生まれました。

タホ・デ・ラス・フィグーラスで見つかった価値の高い洞窟画（ベナルupp〜カサス・ビエハス）やフェニキア時代の





石棺はムセオ・デ・カデイス美術館に展示されています。ローマ時代の足跡はシエラ・デ・アスナールやオクリ、カルテイア、イプトウシ、カリッサ・アウレリア、バエロ・クラウディアなどの町で見られます。

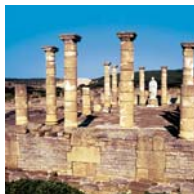
711年以降イスラム教徒の支配下におかれ、城や塔や要塞が次々とカデイスの白い村々に建立されました。サアラ・デ・ラ・シエラやオリベラなどは当時の典型的な村の面影を残しています。

新大陸発見後、カデイス湾に新世界からの宝物が次々と運び込まれました。特にカデイス市、サン・ルーカル、プエルト・デ・サンタ・マリアはその影響を大いに受けました。この好景気によって宮殿や豪邸をはじめとしてヘレスやカデイスのカテドラルやカルトウッハ・ヘレサナなどの宗教建築物が建立されました。

自由主義の発祥地、「タシータ・デ・プラタ」小さな銀のカップという異名があるカデイス市で1812年初のスペイン憲法が発布されました。

バエロ

クラウディア。エンセナダ・デ・ポロニアにある1世紀に栄えたローマ時代の遺跡都市です。経済的には、漁業に依存していました。主に塩漬けと副産物のソース（有名なガルンなど）を生産販売していました。現在も当時の城壁、歩道、住居、魚の塩漬け工場、バシリカ、円形劇場が保存されています。





ピンサポ。シエラ・デ・グラサレマの微気候により西ヨーロッパ特有の第三紀時代の遺物のモミの一種が生育しています。シエラ・デル・ピナル山中、グラサレマとペナマオマの中間地点に、現在保存されている中では最高に立派なピンサポの森があります。



自然とカントリー・ツーリズム

カディス県の広大な環境保護地帯には20ヶ所を超える自然保護区があります。シエラ・デ・グラサレマ自然公園（生物圏保護区）、ロス・アルコルノカーレス（セルバ・ビルヘン・ヨーロッパ）、ドニャナ、デ・エストレチョ、ブレニャ、マリスマス・デ・バルバテ、バイア・デ・カディスなどです。エストレッチョ地域は、ヨーロッパとアフリカ間を飛ぶ渡り鳥のルートになっているほかに、クジラの観察にはもってこいの場所です。

自然保護区はたいてい湿地帯にあり鳥獣類の生息地として世界的に有名です。ペニョン・デ・サフラマゴンは、アンダルシア西部においてハゲワシが巣をかまえる最大の場所でもあります。





コラーレス・デ・ロタは、伝統漁業を伝える海岸べりの漁村ですが、ドゥナ・デ・ボロニアとともに自然のモニュメントといわれています。

このような豊かな自然遺産を持つ魅力的な村が白い村で、カントリー・ツーリズムの最高の目的地です。典型的な建築や古くから受け継がれた伝統の素晴らしさに加え、シエラ・デ・カデイスはハイキングや登山や空中スポーツまでアクティブなオファーをご用意して皆様をお待ちしています。





世界的なワイン。シェリーは国内外で大変人気のあるワインで、料理の伴侶としてだけでなく多くの料理にも使われています。ヘレス-シェレス-シェリーの原産地呼称を持つヘレスとサンルーカル・マンサニーリャは酢のピナグレ・デ・ヘレスとともに特に美食家に愛されています。

料理と祭り

カデイスの料理は海の幸、畑の幸、山の幸をうまく混ぜ合わせた最高級の料理です。野菜畑からのガスパッチョ、サラダ、ピリニャカ、海からの新鮮な魚介類を使ったギソス・マリネロスはもちろん魚介グリルもまたお勧めです。アルマドラバのまぐろは必ず試してみてください。サラソーネス、サンルーカルのクルマエビや有名な「ペスカイト・フリット」もグルメが賛美する一品です。内陸部の畑で採れるアスパラガスやタガルニーナは狩猟肉に添えていただきます。

カデイス県は馬術の古い伝統を誇っていますが、ヘレスはカルトウハ種馬の産地です。この素晴らしい馬が



活躍するイベントが二つあります。馬市フェリア・デ・カバージョ・デ・ヘレスとサンルーカル海岸で行われるビーチ競馬、カレーラス・デ・カバージョスです。両イベントはカディス市で開催されるカーニバルとともに国際観光行事に認定されています。セマナ・サンタ、コルプス・クリスティ、海上の巡礼祭りビルヘン・デル・カルメンやその他の各地のフェリアなど盛り沢山の行事があります。

カンタオール、バイラオール、ギタリストたちの活躍によってフラメンコは世界的芸術になりました。サン・フェルナンドは「カマロン・デ・イスラ」チピオーナはロシオ・フラードが生まれたところです。サンルーカル出身のマノロ・サンルーカルとアルヘシーラス出身のパコ・デ・ルシアとセラニートの三人はギターの魔術師です。ヘレス出身はパケラ・デ・ヘレスとホセ・メルセーです。ペーニャやタブラオ、有名なフィエスタ・デ・ラ・ブレリーア（ヘレス）アランケ・ロテーニョ、ノーチェ・フラメンカ・デ・ラ・セグラ（ベヘール・デ・ラ・フロンテラ）などでフラメンコの祭典が繰り広げられます。



ウブリケの皮革製品。現在この地方には皮を使った工芸品のヨーロッパで最大の工房が集中しています。世界のトップブランドは羊、ヤギ、牛の皮で作った製品の品質の良さに信頼を置いています。生産物の大部分は米国、オーストラリア、カナダ、日本などへ輸出されています。

行程

ルタ・デル・トロを行くと闘牛用牛を自然の中で飼育する有名なガナデリーア・トーレアルタ牧場やトーレ・エストレジャ牧場を訪問できます。

カデイスにはヘレス-シェレス-シェリーとマンサニーリャ・デ・サンルーカルとブランディー・デ・ヘレスの原産地呼称があります。

ルタ・デル・ビノを通ると次のような美味しいワインの産地を通ります。ヘレス・デ・ラ・フロンテラ、サンルーカル・デ・バラメダ、プエルト・デ・サンタ・マリアです。

当地は馬の産地として有名ですから主要な馬の牧場を訪問する（ルタ・デル・カバージョ）ルートがあります。リアル





・エスクエラ・アンダルサ・デ・アルテ・エクエストレの馬術ショーや、ヘレスのフェリア・デル・カバージョやサンルーカル海岸でのビーチ競馬も見逃せません。

ルタ・デル・アトランティコは、カディス県のコスタ・デ・ラ・ルスを通るルートです。サンルーカルのグアダルキビル川の河口からアルヘシラスのプンタ・デ・エウロッパまで多様な顔を持つ海岸（砂丘、入り江、広大な砂浜、海水浴用海岸）を通ります。

歴史、伝統、料理、工芸、自然に触れるためならシエラ・デ・カディスに行くルタ・デ・ロス・プエブロス・ブランコスをお勧めします。イスラム支配時代の香りがする民家の建築物が残る村々が散在します。

ルタ・アメリカーナは新大陸発見と新世界植民地化に大きな役割を果たした時代のルートです。この歴史的な時代の建築物はカディス、プエルト・デ・サンタ・マリア、サンルーカルに残っています。





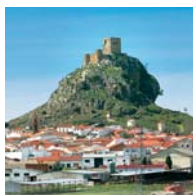


Córdoba

Córdoba







メディナアサアラ。コルドバ市内から8キロのシエラ・モレナ山腹にあるこの豪華な宮殿都市は、アブドゥル・ダフマン3世がコルドバ独立カリフ王国の設立を記念して建立しました。城壁に囲まれた3階建ての建物で、アルカーサル王宮は庭園を備えた2階と最高部にあり1階には住居とメスキータが建てられました。



シエラ・モレナとスブベティカ山の間を流れるグアダルキビル川が突っ切るコルドバは、北はシウダ・レアルとバダホス、西はセビーリャ、東はハエン、南はマラガとグラナダに接しています。高速鉄道（AVE）は交通手段の花形ですが県内の道路も整備されていて交通至便なところ です。

地中海気候の恩恵を受けていて、夏は暑く冬は寒いコントラストの激しい気候のところです。

芸術と文化

当地はいくつかの文明の十字路でしたが、先史時代から人が住んだ形



跡が残っています。スエロスにあるクエバ・デ・ロス・ムルシエラゴスの新石器時代の貴重な廃墟がそのことを証明しています。その後フェニキア人、カルタゴ人、ローマ人がコルドバの豊かな自然と鉱物を産する土地に魅惑されて住みつきました。

セネカやルカーノの生地、ベティカ・ロマーナと呼ばれたコルドゥバ王国には鉱物、ワイン、オリーブオイルなどがもたらされ現在もコルドバ市内のプエンテ・ロマーノ、テンプロ・デ・クラウディオ・マルセロ、セルカディーリヤスの考古学地帯、マウソレオなど当時の遺産が残っています。アルメディニーリャではビジャ・ロマーナ・デ・エル・ルエド、モントウルケではシステルナス・ロマーナス（雨水だめ）が当時の面影をしのばせます。

栄華期は、この時代が終了してからイスラム教徒侵入の時代まで待つことになります。イスラム支配時代に入ってからコルドバはスペインの首都となり、当時の立派





タベルナ。サンアンドレス、サンロレンソ、サンタマリア地区の旧市街と繁華街の中に約40軒の伝統的なタベルナが並んでいます。有名な闘牛士マノレッテや芸術家たちが集まって談笑した同じ酒場でワインを一杯味わってみませんか。この闘牛士は、俳優アドリアン・プロディが扮した映画「マノレッテ」の主人公ですが、闘牛士が生活した場所を通るマノレッテ・ルートもご用意しました。



な建築物が現在の文化ツーリズムの代表的なものとなっています。メスキータ・デ・コルドバ（ジェラルドブレナンによればスペインで最も美しく特徴のある建物）は歴史的市街やメディナ・アサアラ宮殿とともに世界遺産に登録されました。

カリファト・インデペンディエンテ・デ・コルドバ（929年）（コルドバ独立カリフ王国）は、長い間ヨーロッパの中で最もソフィスティケートされた国として誇っていました。西洋の文化センターとして栄え哲学者、歴史学者、医者、詩人、芸術家たちが集まりました。アベロエス、マイモニデス、音楽家のジラーブなどです。その後キリスト教徒の国土回復によってメスキータは教会や礼拝堂、修道院に変わり、アルモドーバル・デル・リオの城などが出現しました。

バロック様式はプリエゴ・デ・コルドバ、カブラ、ルセーナにおいて勢い



を増しました。バロック様式の宝はプ
リエゴのイグレシア・デ・ラ・アスン
ションの聖櫃（せいひつ）です。ルタ
・デル・バロッコには豪邸や小宮殿な
ども含まれています。

コルドバ県の多数の美術館や、ス
ペイン観光行事に指定されたフェスティ
バル・デ・ムシカ・シウダ・デ・ルセ
ナやスル・デ・パルマ・デル・リオに
おけるフェリア・デ・テアトロに文化
的要素が詰め込まれています。

フリオ・ロメロ・デ
・トーレス。アンダル
シアの地方趣味の代表
的な肖像画家で国内、
中南米で高い評価を得
ています。この地方の
精神と魂を誰よりも上
手に表現した画家の大
多数の作品は女性をモ
デルにしたものです。
チキータ・ピコネラは
コルドバ女性を描いた
代表作のひとつです。





活動的な自然

山脈から平野まで自然の楽園が広がります。シエラ・デ・カルデニャとモントロ自然公園、シエラス・スブベティカスと（生物圏保護区「デエサ・デ・シエラ・モレナ」）の内部にあるシエラ・デ・オルナチュエロスは、絶滅危惧種のイベリア・オオヤマネコが生息する大切なエコシステムの中にあります。エンバルセス・デ・コルドビージャとマルパシージョ貯水池（両方が自然地帯）とともにコルドバ市内にあるクエバ・デ・ロス・ムルシエラゴス（スエロス）やソトス・デ・ラ・アルボラフィアなどは天然のモニュメントです。





ラグナ・アマルガ、ラグナ・デ・ティスカル、ラグナ・デ・ソニャ、ラグナ・デル・リンコン、ラグナ・デ・ロス・ハラレス、ラグナ・サロブラルなどは有名なコルドバの南部湿地帯を形作っています。ここは渡り鳥が冬ごもりしたり巣作りをする貴重なところです。

コルドバの背骨のようなグアダルキビル川は、植物や動物にとってかけがえのない自然の回廊地帯で水上スポーツにも最適な場所です。コルドバで楽しめるアクティブ・ツーリズムには、トレッキング、サイクリング、乗馬散歩、ロッククライミング、洞窟探検などです。



ハンティング。オルナチュエロス、カルデニャ、モントロの山系は大物、小物猟ともに狩猟場が揃っている最適の場所です。モンテス・コムナーレス・デ・アダムス山には1万2千ヘクタールの大物狩猟専用の狩猟場があります。





料理と祭り

郷土料理には、次のような原産地呼称を持つ高品質の材料が使われています。バエナとプリエゴ・デ・コルドバのオリーブオイル、モンティーリャ・モリーレスのワイン、ロス・ペドロッチェスの生ハムなどです。

ハンティングが盛んなコルドバでは郷土料理に狩猟肉が（シカ、イノシシ、ムフロン、ノロなど）ふんだんに使われます。コルドバの代表料理を挙げるなら次の三つでしょう。サルモレッホ、エストファド・デ・コラ・デ・トロ（オックステールの煮込み）、美味なフラメンキンです。

コルドバの菓子類は味や香りともに明らかにアラブとユダヤの影響を受けています。品質が良いので有名なプエンテ・ヘニルのドウルセ・デ・メンブリーリョ（マルメロの砂糖煮）やマンテカード、ルテのアルファホーレス（アーモンドケーキ）などで、ここでは口当たりの良いリキュールとアニス酒を飲んでみてください。



コルドバで最も有名な祭りはクルセスとロス・パティオスです。植木鉢に植えた色とりどりの可愛い花々をパティオや庭全体に飾り、近所の人々や観光客に自由に見てもらい、夜になると花のまわりで踊ったり歌ったり、一杯飲んだりする祭りです。噴水やモザイク模様のきれいなパティオを囲む花々を見て通りに出ると屋外のカウンターにも音楽が流れ5月の宵が暮れて行きます。





工芸品。繊細な銀線細工や、コルドバンやグアダメシルと呼ぶなめし皮細工はコルドバの代表的な伝統技術です。ほかにも民芸家具（カストロ・デル・リオのオリーブの木材を使った家具）国内最大の陶器の産地ラ・ランブラで生産される陶器の数々、カリフ王国時代の複製陶器、（モンティーリャが代表的産地）の樽やリュティエーが作る楽器などがあります。



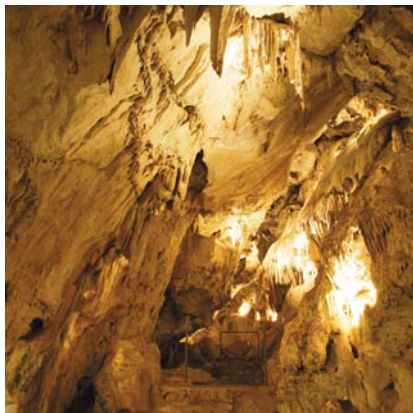
行程

コルドバの支柱グアダルキビル川の上流、アルト・グアダルキビルルートではパルケ・ナトゥラル・カルデニャ・モントロとモントロの歴史建造物市街が魅力的です。

カンピーニャ・スルの白い村は保護湿地帯から恩恵を受けていて、モンティーリャ・モリーレス原産地呼称を持つワインを生産しています。モントゥルケのローマ時代の雨水だめが珍しいです。

グアダホス〜カンピーニャ・エステ、オリーブオイルが特産で、原産地呼称バエナを持っています。このルートはオリーブオイル博物館や生産工場の見学ができます。

スブベティカを通るルートを行くとパルケ・ナトゥラル・デ・ラス・シエラス・スブベティカ自然公園、スエロスのクエバ・デ・ムルシエラゴス洞窟、ビア・ベルデ・デ・スブベティカを通ります。素晴らしいアンダルシア・バロック様式





を見るなら、プリエゴ・デ・コルドバ、ルセナ、カブラへお越し下さい。

ルタ・デル・イベリコを行くとロス・ペドロチェ放牧場でこのルートの主役の豚が草を食べている風景が目に入ります。城、豪邸、サン・フアン・バウティスタ・デ・イノホサ・デル・ドゥケ教会などの宗教建築も興味をそそります。

シエラ・モレナ山は、内陸部観光地として最適な場所で、豊かな自然と狩猟場、アクティブ・ツーリズム、伝統的建築物などが魅力的です。

バイエ・デル・グアディアト溪谷は、アンダルシアのアクティブ・ツーリズムの先端を行っています。鉱山が魅力的な観光地として生まれ変わり、ムセオ・イストリコ・ベルメス歴史博物館やムセオ・デル・テリトリオ・ミネロ鉱山博物館などを見学できます。

ベガ・デル・グアダルキビル平野は、その変化に富む景観に加えてカステイーリョ・デ・アルモドーバル・デル・リオ城やパルケ・ナトゥラル・シエラ・デ・オルナッチュエロ自然公園があり、ハンターにとっての楽園です。





Granada

Granada







アンダルシアの南東部に位置し、イベリア半島の中で最高峰の山（ムリャセンとベレタ）がそびえています。高速道路A 9 2はレバンテ地方とアンダルシア西部を結び、高速道路A 4 4はマドリードと半島の南部を結んでいます。市内を少し出たチャウチナにはアエロプエルト・フェデリコ・ガルシア・ロルカ・グラナダ・ハエン空港があります。

コントラストの激しい気候はその地理的条件によるものですが二つの微気候地帯があります。ひとつはコスタ・トロピカル海岸で年間平均気温が18,5度で年間平均日照時間は3000時間です。もうひとつはシエラ・ネバダ山で夏は暑く、冬の寒い日には零下35度になるというはげしい気温差があります。



景色と自然

たった40キロの距離内にこの地方では次のような景色の多様性を見ることができます。シエ・ネバダ山の白い山頂、雲海の中のアルプハッラ、のどかなコスタ・トロピカル海岸までの途中には粘土質の丘がつらなるアルティプラノの不毛地帯があります。

シエラ・ネバダに北風がさえぎられたグラナダの沿岸部はコスタ・デル・ソルとコスタ・デ・アルメリアの間、73キロにおよびます。ブルーフラッグの海水浴場が多数あり、ヨットハーバー（モトゥリルとアルムニェーカ）もあり、ラ・エラドウラ、マロ・セッロ・ゴールド、カラオンダなどの深海はダイバーたちの楽園です。

自然の財産に恵まれたこの地方には1986年にユネスコが生物圏保護区に認定したシエラ・ネバダ山を始めとして、自然公園（1989年）、国立公園（1999年）などがあります。



洞窟住居。イスラム教徒が始めた独特のこの地下建築物はオジャ・デ・グアディス、アルティプラニシエス・デ・バサ、ウエスカルなどの村の象徴となりました。岩山を掘った住居の内部は一年中18度の温度を保っています。

Granada

60種の特定植物種の中には、エストレリャ・デ・ラス・ニエバスやマンサニーリャ・デ・ラ・シエラなどが生えているほか、カブラ・モンテス（スペイン・アイベックス）が自然の中で生息しています。自然公園が4ヶ所（シエラ・デ・カストリル、シエラ・デ・バサ、シエラ・デ・ウエトル、シエラス・デ・テハダ、アルミハラ、アラマ）最高に美しい景色の（ラ・サグラ、インフィエルノ・デ・ロッハ、カルカバ・マルチャルなど）、パラッヘ・ナトゥラル・アルカンティラード・デ・マルコ・セッロ・ゴルド自然地帯395ヘクタールの沿岸部にはポシドニアのきれいな海底が広がります。

ここではハイキング、トレッキング、フィッシング、乗馬、洞窟探検、滝すべり、クライミング、マウンテンバイク、水上スポーツなどアクティブ・ツーリズムをお楽しみいただけます。自然・スポーツ・伝統の三点が息づいているのはラ・アルプハッラ地域で、独特の白い村が断崖から顔をのぞかせて世界中の人たちをカントリー・ツーリズムへと招いています。



スキー場と山。シエラ・ネバダ山には初級から上級まで滑れる難易度が異なる86のスキー場があり、全長87キロに及んでいます。ここではスキーとスノーボードが楽しめます。夜間照明のあるスキー場もあります。8、6キロの長距離スキー専用のゲレンデもあります。



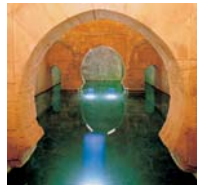


芸術と文化

アルハンブラ宮殿とヘネラリーフェは、アルバイシン地域とともにユネスコの世界遺産に登録されました。この地方にはほかにもモニュメントが豊富にあり、レガド・アンダルシーと名づけたイスラム教徒遺産文化ルートには貴重な芸術品を飾った博物館が50ヶ所以上あります。

ゴラフェに残された198個のドルメンによって先史時代から人が住み始めたことが証明されています。フェニキア人やポエニ人たちは沿岸部を商業の都として発展させました。その証拠にアルムニェカルにはファクトリア・

デ・サラソネス・プニコ・ロマナ、魚の塩漬け工場が残っています。イス



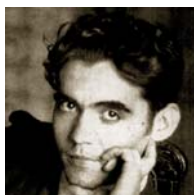
ヘルスケア・ツーリズム。代表的なアラマ・デ・グラナダ、アリクン・デ・オルテガ、パニョス・デ・グラエナとランハロン温泉のほかにも薬効のある鉱水が沸くところやアラブ浴場、トルコ風呂やスパが多数あります。リラックスとヘルスケア、美容のためにグラナダは大変すてきな目的地です。



ラム支配下の700年間にエル・バニエロやバサのアラブ浴場、砦や監視塔が建てられました。ナスリ王朝の首都はその後西洋文化も取り入れました。1492年、ボアブデイルが降伏し、カトリック両王によって征服されたからです。

キリスト教の伝来によってカスティーリョ・デ・ラ・カラオッラ（内部はルネッサンス様式の宮殿）やグラナ

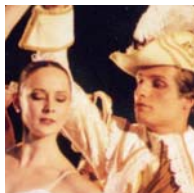




ロルカ。この世界的詩人は、1898年グラナダの平野にあるフエンテ・パケロスの小さな家（現在、生家博物館）で生まれました。「ジプシーのロマンス集」や「ニューヨークにおける詩人」などの作詞家は幼いころバルデルビオの父方の家や現在は住居博物館のウエルタ・デ・サン・ピセンテの家で避暑を過ごしました。

ダのパラシオ・デ・カルロス・キント宮殿、カテドラル、カルトウッハ（バロック様式の宝物）カルトジオ会修道院など新様式の立派な建物が建てられました。

素晴らしいモニュメントに加えて詩人や音楽家の郷里は、国際的に有名な文化行事にあふれています。1883年に初回が開催され毎年世界中の名高いオーケストラやバレエ団と3万人の入場者を記録しているフェスティバル・インテルナショナル・デ・ムシカ・イ・ダンサ・デ・グラナダがその代表イベントです。ホーカス・ポーカスやフェスティバル・インテルナショナル・デ・ジャズ（市内で開催）やジャズ・エン・ラ・コスタ・デ・アルムニェカル、セルターメン・デ・ギターラ・クラシカ・アンドレス・セゴ



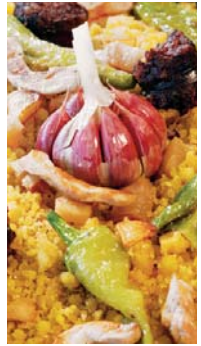
Granada

ビア・デ・ラ・エラドゥラ、パラパンダ・folk・デ・イジョラなど楽しい催しが目白押しです。

料理と祭り

祭りの日程も目白押しです。セマナ・サンタ、クルセス・デ・マヨ、ビルヘン・デル・カルメン（沿岸部で行われ海上の山車行列がカラフルな祭り）モーロス・イ・クリスティアーノス、グアディスの「カスカモッラス」などは必ず見る価値があります。

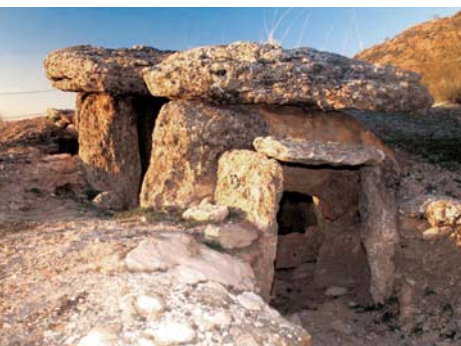




グラナダの郷土料理としてタペオをお勧めします。タパスは飲み物をたのむと無料で出してくれます。

沃野で採れる野菜類はサラダや冷たいスープに使われ、内陸部の料理は低い気温に合わせてシチュー、鍋物が多く、セグレニョ羊の肉が使われます。アルプハッラは、美味しい豚の産物（特に生ハムのハモン・デ・トレベール）が有名で、沿岸部では南洋のフルーツとフレッシュな魚が食卓をにぎわせます。

この地方で原産地呼称を持つのは次の5種です。（オリーブオイルの「モンテス・デ・グラナダ」と「ポニエンテ・デ・グラナダ」、蜂蜜「ミエル・デ・グラナダ」、チェリモヤ「チリモヤ・デ・ラ・コスタ・トロピカル・デ・グラナダ・マラガ」アスパラガス「エスパラゴ・デ・ウエトル・タハル」）とりオ・フリオのキャビアです。ワインの産地が四つに分かれ、地ワインが生産されているほかに修道院で焼いている美味しい菓子類があります。



工芸品。グラナダは歴史上、異なる文化や芸術の影響を受けましたが、そのaあります。タラセナという名の寄せ木細工、陶器、有名なリュティエーによる弦楽器、ブリキ細工、ししゅう製品、ハラ、皮の打ち出し細工などがグラナダに根付いた古い伝統民芸です。

行程

グラナダ・イ・エントルノ周辺ルートを行けば、フェデリコ・ガルシア・ロルカにちなんだ記念物がある村々を訪れることができます。

シエラ・ネバダ山の雪におおわれた頂上と地中海の間にアルプハッラ・グラナディーナとバジェ・デ・レクリンがあり、その周辺にはシエラ・ネバダ自然国立公園や独特の建築物が残る白い村が存在しています。

バサ-ウエスカル：エル・アルティプラノは、ヨーロッパで最古の住居跡が残る考古学的に興味深いところで（ガレラとオルセ周辺）、珍しい洞窟住居を見ることができます。

大昔強力な文明が上陸したコスタ・トロピカルには当時の文化財が残されています。フェニキア時代の古墳、ローマ時代の水道橋、イスラム支配時代の城などです。海岸線は微気候におおわれているので一年中楽しめます。

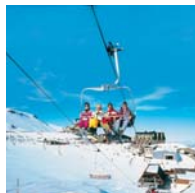




グアディスとエル・マルケサードに行くルートは、アンダルシアにおいて最もドルメンの数が多いゴラフェを通ります。アリクンの温泉で汗を流し、グアディスの洞窟住居で泊まるのも一興です。

ポニエンテ・グラナディーノの特長は、多彩な景色で、シエラス・デ・テハダ自然公園、アルミハラ自然公園、アラマ自然公園など、グラナダのアラマ温泉やペニャ・デ・ロス・ヒターノスの貴重な巨石時代の古墳にもお目にかかれます。

シエラ・ネバダはモーロ人の面影を残す恵まれた自然のあるところです。シエラ・ネバダ国立公園、シエラ・ネバダスキー場、モナチルなどへは是非行ってみてください。







Huelva

Huelva





Huelva



1万平方キロメートルに及ぶ土地が明るい海岸から木々が生い茂る山側まで続くウエルバ県は、スペインとポルトガルの国境を接するところにあります。セビーリャ国際空港とファロ国際空港や、整備された道路網と鉄道網によって国内、ヨーロッパ、世界へのアクセスが簡単です。

地中海・大西洋気候の穏やかさに恵まれ、氷点下になることは一度もなく、年間を通じて温暖な気温で、年間日照時間は3000時間あります。

海岸と自然

ウエルバのコスタ・デ・ラ・ルスは、銀色の砂と穏やかな海の海岸線が絶えることなく122キロ続いています。アヤモンテとプンタ・ウンブリーアの間は平原の中



に大変長い海岸（海辺にはモダンな町が出現しました）や砂丘、松林、小川の河口と大西洋の波が押し寄せる砂州などがあります。

海岸から1キロ範囲内の都市の割合が極端に少ない地方だということを誇りにしています。つまり未開の砂浜の数が多いということなのです。アウトドア生活を楽しむのにこれ以上素晴らしい条件は無いと思われそうですが海のスポーツの愛好者のためにヨットハーバーやヨットクラブが約12ヶ所あります。



グルタ・デ・ラス・マラビージャス。光と色彩と音楽がとりなす1千メートルにおよぶ行程を持つアラセナにあるこの洞窟は、19世紀末に発見されたあとヨーロッパで最初の観光用洞窟として一般客にオープンされたのは20世紀に入ってからでした。特に洞窟内の壁を覆う鍾乳石と石筍（せきじゅん）が多く、湖や迷路が広がるのに驚かされます。

ウエルバにはこのほかに沿岸部の保護地帯があります（マリスマ・イスラ・クリスティナ、マリスマ・デル・ピエドラ、フレチャ・デル・ロンピード、ロス・エネブロス、マリスマ・デル・オディエルの低湿地、ドニャナなど）。光が海辺にサンサンと降り注ぎます。確かに自然はこの地に対して寛大でした。その証拠に全面積の三分の一が自然保護地帯なのです。

ドニャナ国立自然公園は、ヨーロッパの中で最大面積の環境保護地帯です。地中海の広い湿地帯の最良のモデルとして世界遺産に登録されています。ここには様々なエコシステムがあり（海岸、狩場、低湿地帯のマリスマ、砂丘、平野など）かなりの数の動物相が生息しています。マリスマは特にヨーロッパとアフリカ間を通る無数の渡り鳥にとってきわめて大切な場所で、ここで子育てを





ゴルフ。イギリス人がミナス・デ・リオ・ティントを開発した1世紀後に、スペインで初めてのゴルフ場がオープンしました。現在ウエルバ県にある多数のゴルフ場でプレーを楽しめます。

ウエルバの海岸べりの美しい自然の中に、イスラ・カネラ、イスランティーリャ、エル・ロンピード、ヌエボ・ポルティル、ベジャビスタなどのゴルフ場があります。そしてエコロジーゴルフ場として始めてオープンしたマTRASカーニャスにあるドウナス・デ・ドニャナ・ゴルフ場や、カントリー風のコルタ・アタラヤ・ゴルフ場もあります。



したり冬ごもりをしたりします。また絶滅危惧種のイベリアカタジロワシとイベリアオオヤマネコの生息地です。

ウエルバでハイキングやトレッキングを楽しみにしている方には、ビーアス・ベルデスやカソルラ自然公園の次に広いシエラ・デ・アラセナとピコス・デ・アローチェ自然公園内の700キロメートルにおよぶハイキングコースがあります。





芸術と文化

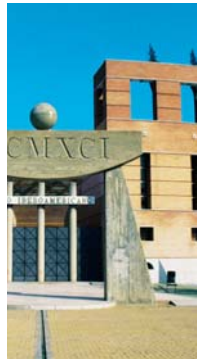
多くの文明が通り過ぎたこの地には、タルテソス、フェニキア、ローマ、西ゴート、イスラム、キリスト教文明などの文明が交じり合っ残っています。ネクロポリス・デ・ラ・ホヤ、城壁市街ニエブラ、メスキータ・デ・アルモナステルやフエンテエリードス、カスターニョ・デル・ロブレド、リナーレス・デ・ラ・シエラなどの独特な民家建築などです。しかし当地と歴史上必ず結びつくのは新大陸発見でしょう。コロンブスが新世界を目指して初の航海に出立したのはラ・ラビダからでした。この航海には勇敢な船乗りたち、パロス・デ・ラ・フロンテラ出身のピンソン兄弟とモゲール出身のニーニョが同伴しました。これらの町には航海にちなんだモニュメントなどが残っていて、ルタ・デ・ルガーレス・コロンビーノと名づけられたルートの中に入っています。



フェスティバル・デ・シネ・イベロアメリカノ。最近製作された中南米映画フェスティバルは今年30回目を迎えました。このイベントのおかげでウエルバは、オーディオビジュアルのプロたちが集まる会場の場所となりました。

大昔鉱山が開発されたリオティント一帯は今でも鉱業関連施設が現存していてウエルバ市やプンタ・ウンブリーアにも開発にかかわったイギリスの面影が残っています。

ファン・ラモン・ヒメネスの生誕地、ファンダンゴの発祥地、ウエルバではフェスティバル・デ・テアトロ・イ・ダンス・カスティージョ・デ・ニエブラやフェスティバル・デ・ムシカ・クラシカ・アヤモンテなどが開催され、大勢の入場





者でにぎわいますし、ラ・ラビダでは毎年フォロ・イベロアメリカーノが開催されます。

料理と祭り

ウエルバの料理は山の幸と海産物の取り合わせです。山からは余りにも有名なイベリコ豚の生ハム、原産地呼称ハモン・デ・ウエルバが食の花形です。ほかにも素敵な味のキノコ類とともに食卓に乗る肉類も忘れられません。沿岸部からは大変美味で有名なガンバ・ブランカ・デ・ウエルバを始めとして、ランゴスティーノ、コキーナ、ナバッハ、チルラ、チョコなどの魚介が美味で豊富です。若くてフルーティーで芳醇なビノ



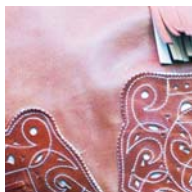
ス・デ・コンダドは同じ原産地呼称を持つビネガーとともに名高いワインです。

セマナ・サンタ（特にウエルバ、モゲール、アヤモンテ）、ベロカルのラス・クルセス、ガラロサのゲラ・デ・アグア・デ・ロス・ハリートス、ラ・プエブラ・デ・グスマンのダンス・デ・ラス・エスパーダス剣踊り、ペニャ・デ・アリアス・モンタノのロメリア・デ・ロス・アンヘレス巡礼祭りなどが知られています。



エル・ロシーオ。毎年ペンテコステス（聖霊降臨祭）のころ、ドニャナ自然公園付近にあるアルモンテ村にはブランカ・パロマ（白い鳩）と呼ばれるビルヘン・デ・ロシオを礼拝するために世界中から巡礼者が集まり、アルモンテの人々がかつぐロシオのマリア様が礼拝堂から出るのを待つ情熱に満ちた宗教祭りです。





工芸品。ウエルバ県には馬に関する古い伝統があることから、工芸品も馬と関連のあるものが多くなります。特に馬具や馬の尻帯の生産が際立ちます。生産技術に優れたバルベルデ・デル・カミーノ製ブーツは、材料が小牛の革で、世界的に有名な製品です。樽の生産が盛んなのは、古い伝統を誇る当地のワイン生産のおかげです。

行程

グアディアナ川の河口からグアダルキビル川の河口までを行くルタ・デ・ラ・コスタはウエルバ県の沿岸部120キロに及ぶ海岸や保護地帯を通ります。

アメリカの発見と植民地化にウエルバがになった役割が反映されているのは、ルタ・デ・ロス・ルガーレス・コロンビーノスです。モゲール、パロス、ラ・ラビダなどにモニュメントや記念の場所が集中しているルートです。

モニュメントと伝統と自然がマッチしているのはエル・コンダード、ニエブラの城壁、ワイン好きから賞賛されているビーノス・デ・コンダードのワイナリー、ロメリーア・デル・ロシオ、そしてドニャナなどが魅力的です。





エル・アンデバロは山と海に囲まれ、素晴らしい自然、つまり空気と水を提供してくれます。ルタ・デ・グアディアナは水と風を主役にしたルートです。ハンティングやフラメンコ（ファンダンゴも）を楽しみ、郷土料理を味わい、白い村の民家の建築を見るのに最適です。

ラ・ルタ・デ・ラ・クエンカ・ミネラは鉱業で栄えたアンデバロ一帯を通ります。このルートではヨーロッパ最大の露天掘り鉱山であるパルケ・ミネロ・デ・ミナス・デ・リオティントの見学を逃してはなりません。コルタ・アタラヤ、ベラビスタのイギリス人居住区も見る価値があります。

シエラ・デ・アラセナ・イ・ピコス・デ・アロチェ自然公園はこのルートの中核をなしますが、グルタ・デ・ラス・マラビージャスも通ります。郷土料理についてはハブゴ産のハモン・デ・ハブゴが食卓の主役です。





Jaén





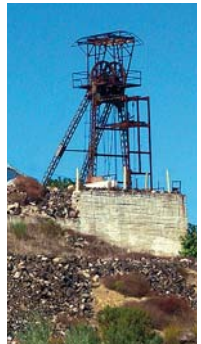
カスティーリャの高原大地とアンダルシアにはさまれた当地は、北をA4（カディス～マドリード）高速道路と南にA92（グラナダ～マラガ）高速道路と連結するA44によって完璧な交通網が整っています。中央部には、アンダルシア地方最大の流域であるデプレシオン・デル・グアダルキビルが横たわっています。

大西洋から吹く風によって穏やかな気候に恵まれ、夏は暑く冬は4～6度の気温です。

芸術と文化

先史時代から人が住み始めた形跡は、世界遺産に登録された洞窟画が証明しています。半島内では最大のイベリア人コロニーがありました。その当時の足跡がプエンテ・タブラス（ハエン）、サントウアリオ・エロイコ・デル・パハリーージョ（ウエルマ）、戦士の頭





カストロ。リナーレスからわずか6キロ離れたところにイベリア人が住んでいた町、カストロがあります。その戦略的位置と鉱山が豊かだったために第二次ポエニ戦争でローマ人とカルタゴ人が激しく戦ったところです。一方考古学的発掘による新石器時代の遺跡の出現が証拠となって、歴史的にも貴重な場所であったことがわかります。イスラム人の侵略まで住居があったようです。この遺跡の中でも重要なのはネクロポリス、給水装置、城壁の北部セクター、エル・オリバルの家、アラブ城などです。





が掘り出されたネクロポリス・デ・セリージョ・ブランコ・デ・ポルクナ、サントウアリオ・ルペストレ・デ・ラ・カバ・デ・ラ・ロベラ（カステジャール）、コンフント・アルケオロヒコ・デ・カストロ（リナーレス）カマラ・セプルクラル・デ・トヤ（ペアル・デ・ベセッロ）などに残されています。

ローマ時代の遺跡は、シエラ・モレナの鉱山に続く当時の道路や橋などに見られます。カストロ（リナーレス）やイリトゥルギ（アンドウハル）などに当時新設された町の住民のために便宜をはかったインフラでした。

イスラム教徒とキリスト教徒が行き交った場所、ハエン王国がレコンキスタによって奪還されたあと世界遺産に登録されたウベダとバエサでは、特にルネッサンスの花が開き、芸術文化の最盛期を迎えました。その主役はアンドレス・デ・バルデルビラと、郷土コボスおよびモリーナー一家が文化芸術を支援したおかげです。カテドラル・デ・ハエン、バエサの

イグレスΙΑ・デ・サン・フランシスコ、ウベダのサクラ・カピーリャ・デル・サルバドールなどがルネッサンス様式の宝物です。これらはルタ・デル・レナシミアントに含まれています。

文化カレンダーは、音楽を主役としたイベントが一杯です。ブルースカソルラはリトル・チャーリーやサックス・ゴードンなどの現在活躍中のミュージシャンを迎えて盛大に催されます。ほかにもエトゥノスール（アラカラ・



ルタ・デ・カステイリヨス・イ・ラス・パターリャス。ハエン県は、これまでの歴史を通じて半島における政治、社会、経済の潮流を変える三大戦争の舞



ラ・レアル)、フェスティバル・デ・ジャズ・「シウダ・デ・ウベダ」、トーレペロヒル・ロックアンドブルース・フェスティバル、ガスパッチョ・フラメンコ・デ・アンドウハル、フェスティバル・デ・ムシカ・アンティグア・デ・ウベダ・イ・バエサ、フェスティバル・インテルナシオナル・デ・テアトロ・デ・カソルラ、シエラ・デ・セグラのフェスティバル・インテルナシオナル・デ・シネ・デル・アイレ・エル・ジェルモがあります。

台となりました。バエクラの戦い（紀元前208年）、ナバス・デ・トロサの戦い（1212年）、バイレンの戦い（1808年）です。

シウダ・レアルとグラナダを結ぶ中間地点にあるハエンでは立派な城があちこちに見られます。

活動中の自然

ハエン県はアンダルシア最大の自然保護地帯をかかえています。とくにアンダルシア州最大で訪問者数が最多のパルケ・ナトゥラル・デ・ラス・シエラス・デ・カソルラ・セグラ・イ・ラス・ビジャス自然公園を特記したいと思います。この公園はレセルバ・デ・ビオスフェラ（生物圏保護区）に指定され、スペイン・アイベックスが生息するハンティング愛好者にとっての楽園です。それほど有名ではありませんが、デスペニャペッロス、シエラ・デ・アンドウハル（地中海エ

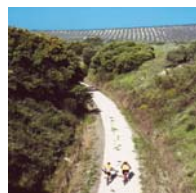


コシシステムの好例）、シエラ・マヒナ自然公園があります。

ラグナ・オンダ、ラグナ・デ・チンチェなどレセルバスやラグナ・グランデ、カスカーダ・デ・ラ・シンバッラ・イ・アル・グアダルキビールなどのパラッヘ、そのほかにも自然のモニュメント（ケヒーゴ・デル・アモ、オルガノス・デ・デスペニャペッロス、ピナール・デ・カナバス、恐竜の足跡



ビア・ベルデ・デ・アセイテ。昔ハエンとカンポ・レアルを往復していた鉄道の線路をたどって行けば、緑の道をハイキングやサイクリングなどを楽しみながら過ごすことができます。このルートはルタ・デ・トレオネスと名づけられたイスラム支配時代の監視塔を通り過ぎるルートと交差しています。



とエル・ピエラゴ) などがこの地方の自然遺産です。

以上のスペースは、自然と接して楽しむアクティビティ、たとえばハイキング、サイクリングツーリズム、フィッシング（マスの養殖場が20ヶ所以上）、ダムで楽しむ水上スポーツ、写真愛好家のためのハンティング、バードウォッチングなどが楽しめます。



ラ・ビルヘン・デ・ラ・カベサ。毎年4月の最終日曜日にセッコ・デル・カベッソ（アンドゥハル）には50万人以上の巡礼者が集まり、ビルヘン・デ・ラ・カベサに祈りを捧げます。この巡礼が始まったのは13世紀にさかのぼり、スペイン最古のロメリーアとして知られています。



料理と祭り

ハエンで生産されるピクアル種のオリーブオイルは郷土の産物の花形で、「シエラ・デ・カソルラ」「シエラ・デ・セグラ」「シエラ・マヒナ」「カンピーニャス・デ・ハエン」「ハエン・シエラ・スール」という原産地呼称があります。ハエン県では世界の20パーセントのオリーブオイルを生産しています。

オリーブオイルは、野菜のポタージュ、アルボロニーアや豚の背肉の缶詰、オイル漬けチョリソ、良く知られているピピラナサラダ（ピーマン、トマト、にんにくで作る）などの伝統料理に使われています。

狩猟肉（大物と小物）やマスやコルデロ・セグレーニョ羊肉も質の良い産品です。食べ物と一緒に飲むのは、クエルバという桃が入ったサングリアの一種がおすすめです。





菓子類は、オリーブオイルを使って作られ、伝統的な菓子のほかにもオチーオス・コン・サル・イ・ピメントンやトルタス・デ・マサ・コン・マタラウーバやオルナッソスなどが知られています。これらの菓子は春に行われるロメリーア巡礼祭りやほかの祭りの時に必ず食されるものです。

ラ・カンデラリア、ラス・クルセス・デ・マヨなどの祭り、聖週間セマナ・サンタの特徴は、パソスと呼ばれる山車行列で見せる素晴らしい芸術的聖像にあります。ハエン、ウベダ、バエサ、リナーレス、アルカラ・ラ・レアルのセマナサンタは特に大掛かりです。



行程

ルタ・デル・コンダドは、広大なオリーブ畑と闘牛用牛を飼育する牧場を通るルートです。

ラ・カンピーニャには考古学上貴重なイベリア人の遺跡があり、パルケ・ナトゥラル・シエラ・デ・アンドゥハルやサントゥアリオ・デ・ラ・ビルヘン・デ・ラ・カベッサなどを通ります。

シエラ・デ・セグラにはオルノスやセグラ・デ・ラ・シエラ城ですとかパルケ・ナトゥラル・シエラス・デ・カソラ・セグラ・イ・ラス・ビジャス自然公園やエンバルセ・デル・トゥランコがあります。

ハエン周辺の景観はオリーブ畑が大部分を占め、シエラ・デ・マヒナ山とペニャ・デル・アギラ自然公園があります。

ラ・ロマ・イ・ラス・ビジャスを通るルートは、世界遺産に登録されているウベダとバエサのルネッサンス市街へと皆様を導きます。

コマルカ・ノルテの行程はパルケ・ナトゥラル・デ・デスペニャペッロスとカスカーダ・デ・ラ・シンブラがあります。





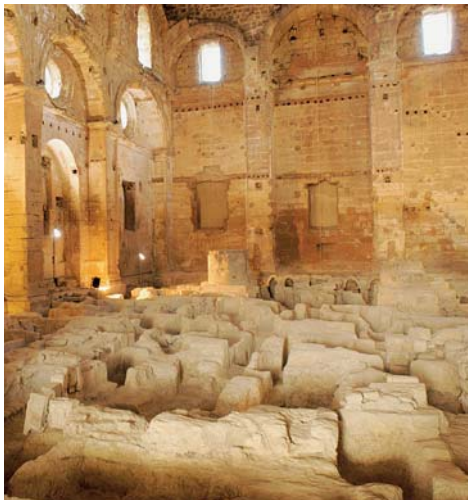
アルト・グアダルキビルとカソルラ
とラ・イルエラの一帯にはシエラス・
デ・カソルラ自然公園が横たわって
います。

シエラ・スルには素晴らしい景観の
村々（アルカラ・レアルやアルカウデ
ッテなど）が点在します。

シエラ・マヒナを行くルートでは、
シエラ・マヒナ自然公園やナスリ王朝
ルートにも含まれるいくつかの城塞を
通ることができます。



工芸品。ハエン県の
代表的工芸品は、ウベ
ダの鋳造細工、陶器、
ステンドグラス、アン
ドゥハルの伝統陶器、
パイレンの釉がけ陶器
などです。そのほかに
はビリャレスの柳の
枝や他の繊維を使った
細工や、パール・デ・
ベセッロ産のエスパド
リーユもあります。





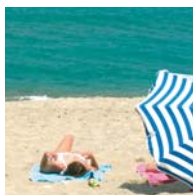
Málaga



Málaga





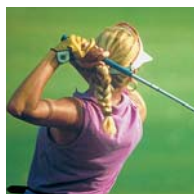


マラガ県はアンダルシア州では最小の面積で、地形学上最も起伏の多い県です。アエロプエルト・インテルナシオナル・パブロ・ルイス・ピカソ空港のおかげで国内、海外とのコミュニケーションが整い、高速鉄道AVEがつい最近マラガまで開通して便利になりました。

年間を通じてツーリズムが楽しめる場所ですが、沿岸部つまりコスタ・デル・ソルは内陸からの風が高い山脈によってさえぎられ、年間300日の平均日照日と気温が暖かいところとして気に入られています。



コスタ・デル・ゴルフ。コスタ・デル・ソルの別名。ヨーロッパで最もゴルフ場が集中している地域であることを誇っています。年間を通じてプレーできる気候に恵まれ、ロバート・トゥレント・ジョーンズのような世界的に著名なゴルフ場のデザイナーが魅力的なコースの設計にいどんだ地形の好条件をそなえています。そしてここではライダーカップやボルボマスターが開催されました。



自然と海岸

変化に富む景観や気候によってしばしばこの地は小さな大陸にたとえられています。マラガ県には多くの自然保護地帯があります。西はカデイスと県境を接し、生物圏保護区のシエラ・デ・グラサレマやシエラ・デ・ラ・ニエベス、アルコルノカーレスや市内に近いモンテス・デ・マラガ自然公園があり、東にはシエラス・デ・テハーダ、アルミハラ、アラマ各自然公園があります。

デスフィラデロ・デ・ロス・ガイタネス、ロス・アカ

Málaga



ンティラードス・デ・マロ-セッロ・ゴルドなどの自然の中には貴重な動植物相が生息しています。アンテケラのエル・トルカルは、カルストの迷路のような岩がそびえ、サイエンスフィクションの映画製作の舞台として何度も利用されました。フランスのカマルゲのほかにフラミンゴが唯一巣作りをするマラガのラグナ・デ・フエンテ・デ・ピエドラはスペインで最大の潟（かた）のひとつです。

コスタ・デル・ソルと同様に、静かで暖かくて透き通る海が広がる160キロの沿岸部は、活動的な人たちに最適です。

コスタ・デル・ソル・オクシデンタルは、マラガ市からカディス県境までの沿岸部を指します。スペインで初めてツーリストが集まり始めたところのひとつとして知られています。ここで繰り広げられる有名なうるわしい社交シーンはフランスのコートダジュールとモナコの社交ライフと度々比較されます。





コスタ・デル・ソル・オリエンタルは、アシャルキアの海の玄関です。ここにはひとけのない浜辺や名も知れぬヌーディストの入り江がひっそり存在しています。あたかもバルコニーからのぞいているように、ネルハまでの切り立った断崖には漁村が点在しています。シエラ・アルミハラ山が海に落下したことによって石灰岩の切り立った断崖が200メートルの高さでそびえる険しい姿を見せています。

水上スポーツへの要求に対してはマルベージャの国際的に有名なプエルト・バナスを始めとする11ヶ所のヨットハーバーが満足させます。



クエパ・デ・ネルハ。自然モニュメントに認定されたこの地方で最大の洞窟で、内部の鍾乳石と石筍（せきじゅん）の形が素晴らしく、考古学上の遺跡が豊富でもあります。一般客にオープンしているのは次の4つのへやです。

ベレンの間、幻影的な形から名前がつけられた幽霊の間、フェスティバル・インテルナシオナル・デ・ムシカ・イ・ダンサが毎年開催されるパレーの間、そして世界で最大の自然の柱があるカタクリスモの間です。





シネ・コン・アセン
ト・エスパニョール。フ
ェスティバル・デ・シネ
・エスパニョール・デ・
マラガは1988年に初
めて開催され、我国の
映画界には不可欠なブ
ロが集まる盛大な祭典
になりました。毎年春
になるとテアトロ・セ
ルパンテスには名声の
ある俳優やニューフェ
イスが集まり、質の高い
長編、短編映画やドキュ
メンタリー映画が封切ら
れます。演出家やプロデ
ューサーにとって垂涎の
的であるビスナガ・デ・
オロがベスト作品に贈ら
れます。

芸術と文化

先史時代の遺跡が豊富なことによって
大昔から人が住んでいたことがわかりま
す。とくに、アンテケラのメンガ、ビエ
ラ、エル・ロメラルのドルメン群や、ピ
レッタ、ドニャ・トゥリニダー、ネルハ
の洞窟画は特記に値するものです。

フェニキア人は、マラカの町を紀元
前8世紀に創設しました。一方ローマ
帝国はロンダのアシニオローマ劇場や
マラガのローマ劇場、マルベージャの
リオ・ベルデのローマ時代の住居址、
ファロ・デ・トロックス遺跡などを残
しました。

マラガ市内にあるアルカサーバとカ
ステイーリョ・デ・ヒブラルファロ、
スペイン国内でも保存状態が良いロン
ダ市にあるアラブ風呂、フエンヒーロー



ピカソ。芸術の天才が生まれた町としてピカソと大変強いつながりを持つ町です。画家の作品を200点展示した美術館のほかにも幼少時に画家が過ごしたマラガ市内には生家のあるプラサ・デ・ラ・メルセー、サン・ラファエル小中学校、ラ・マラゲッタ闘牛場などがあります。

ラにあるカステイリョ・デ・ソアイルなどはイスラム支配時の貴重な遺産です。

レコンキスタによって芸術の新しい様式が導入され、マラガのカテドラル（南の塔が未完なので「ラ・マンキータ」片腕と呼ばれる）や、アンテケラのリアル・コレヒアータ・デ・サンタ・マリア・ア・ラ・マヨールのような宗教建築に見られるようになりました。ルネッサンス様式の民家の建物には、マラガのパラシオ・デ・ロス・コンデス・デ・ブエナビ





スタ（現ピカソ美術館）、アンテケラのパラシオ・デ・ロス・マルケセス・デ・ラ・ペニャ・デ・ロス・エナモラードス、ベレス・マラガのカサ・デ・セルバンテス、ロンダのモンドラゴンなどがあります。

バロック様式がほかの地方と比較にならないほどアンダルシアへ力強く入って来ました。18世紀に建てられたり修復された教会や宮殿の数は驚くべき数で、当時豊かな経済でうろっていたアンテケラはゴシック様式が花開いた町です。その時代の新しい都市開発の形跡は、アルチドナのプラサ・デ・オチャバーダやロンダのタホ川にかかるプエンテ・ヌエボに見られます。

料理と祭り

郷土料理には最高品質の地元でとれた材料を使います。その内原産地呼称を持つものは次の通りです。オリーブオイルはアンテケラ、フルーツはコスタ・トロピカル・グラナダ・マラガのチェリモヤとマラガの干しブドウ、ワインはマラガとシエラス・デ・マラガなどです。ほかにも肉や野菜や特に美味しい魚の料理が豊富にあります。

アホブランコ（アーモンドとブドウが入ったガスパチョの一種）、魚のフリトゥラ、有名なエスペト（砂



浜の焚き火の横で焼く串刺しのイワシ）などがマラガの食卓をにぎわせる有名な郷土料理です。

リオ・ゴールドのキリストの受難の復元やアンテケラの聖木曜日と聖金曜日に行われる「カレーラス・デ・トゥロノ」、マラガ市のセマナ・サンタの宗教行列は、国際観光行事に認定されていてこの地方でのセマナ・サンタの重要性を物語っています。他にもクルセス・デ・マヨ、ノチェ・デ・サン・フアン、コルプス・クリスティ、フィエスタ・デ・モーロス・イ・クリスティアーノスなどが興味を呼ぶ祭りです。





ロンダ、闘牛の伝統。「夢見た町」とドイツの詩人リルケが呼んだ町です。ロメロとオールドニエスの名前は闘牛士の二大家系をさし、この町で生まれたことを誇りにしています。ロメロ一家は闘牛の基本形を作り出し、オールドニエス一家はよりパーソナルで思いつきのスタイルを生み出しました。有名なロンダの闘牛場では毎年コリーダ・ゴジェスカが開催されます。



行程

マラガ市に近い魅力的なバジェ・デル・グアダルオルセには白い村の民家やデスフィラード・デ・ロス・ガイタネスが目を見張らせます。

ルタ・デル・グアダルテバと言う名称は同名の川から取られました。考古学的遺跡（クエバ・デ・アルダーレスの洞窟画）や自然とのコンタクトが楽しいレジャーを経験してください。

コスタ・デル・ソルは、世界中にマラガという名前を有名にしました。太陽と海岸、ゴルフ場やヨット・ハーバーが皆様をお誘いします。

アシャルキーアの大きな魅力は、雪をいただく山から断崖の入り江まで短い距離で行き着けるという景観のコントラストです。パルケ・ナトゥラル・シエラス・デ・テヘダ、ア





ルミハラ・イ・アラマの山の中腹には白い村が点在しています。

ルタ・デ・ラ・シエラ・デ・ラス・ニエベスには世界で三番目に深い亀裂のシマ・ヘスム、ピンサポの森、タホ・デ・ラ・カイナなど自然の宝がひそんでいます。

歴史と伝統と伝説がセラニーア・デ・ロンダでローマ時代やイスラム支配時代の遺跡と手を組んでいます

ロンダの町そのものがモニュメントです。アルコルノカーレス、シエラ・デ・ラス・ニエベス、シエラ・デ・グラサレマなどの大自然に囲まれた町です。

スブベティカとペニベティカ山脈の間を行くルタ・デ・ノロルマ（マラガの北東部）は、木々が茂るグアダルオルセとヘナル溪谷を通る変化に富む景観があります。地理的にはアンダルシアの中央部で、モニュメントが豊富にあります。この地域にあるアルチドナは見る価値があります。

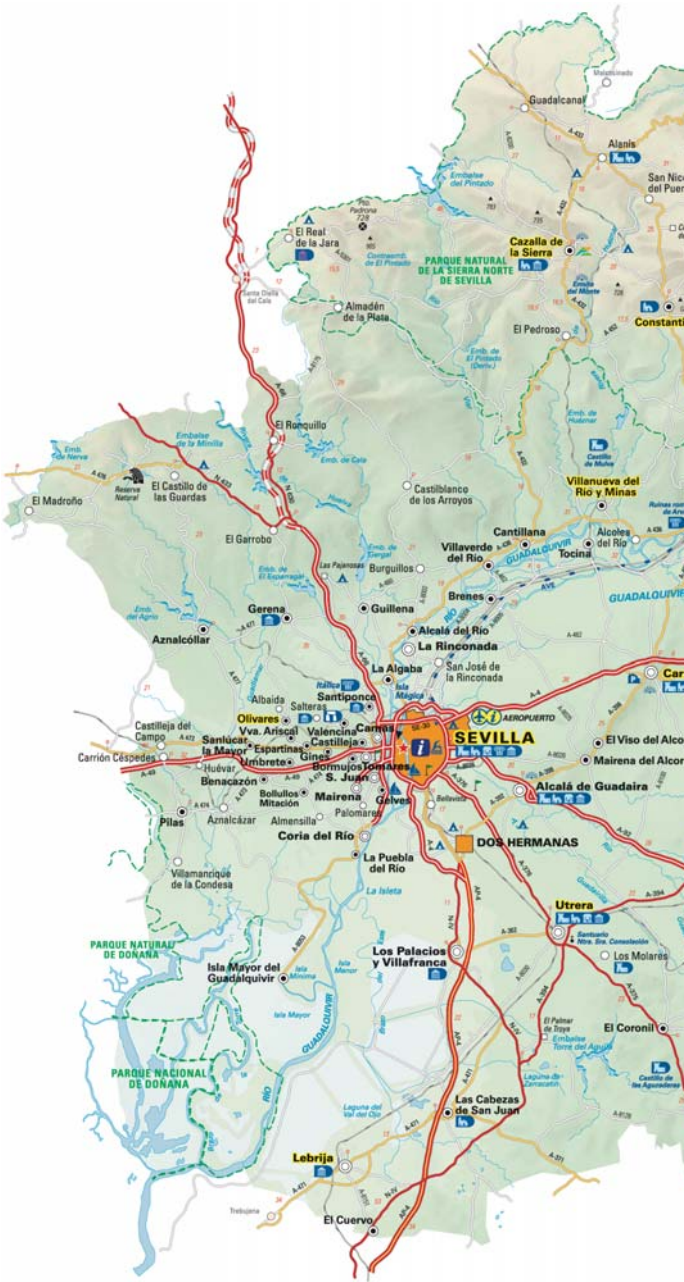
コマルカ・デ・アンテケラを代表するのは、フエンテ・デ・ピエドラ湖とエル・トルカルです。メンガ、ビエラ、ロメラルの貴重なドルメン群に加えてアンテケラ市のルネッサンスとバロック様式の建築物は美しいモニュメントです。



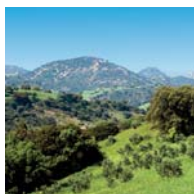


Sevilla

Sevilla



Sevilla



セビーリャ市はアンダルシア州西部の中央にあり、グアダルキビル川の川岸に位置しています。山が遠くに顔を出し、豊沃な谷に向かって広がっています。近代的な高速道路網（A-4、A-92、A-49）によって各地と結ばれていて、サンパブロ国際空港や高速鉄道AVEが通っています。

気候は、平均気温がおだやかで（18度と20度）雨が少なく日照時間が多い地方です。

芸術と文化

古い昔から多くの文化が交差した足跡がセビーリャ全体に残っています。ドルメネス・デ・バレンシナは、ヨーロッパでもっとも重要な銅石器時代の遺跡です。一方テソロ・デル



・カランボロは、神秘的なタルセッソス人の忠実な史跡です。

豊かなベティカ・ロマーナ地方は、7世紀の間、帝国の一部をなし、文明の香りが豊かなところでした。金属、ワイン、オイル、小麦、哲学者、作家、そしてイスパニアに設立された最初の植民地のイタリカは、ローマ以外で生まれた二人の皇帝、トラヤヌス帝とアドリアーノ帝を生みました。この考古学史跡においてはローマ劇場跡である巨大なアンフィテアトロやローマ時代の美しいモザイクが残っています。

イスラム教徒の到来によって今でもあちこちで当時の様子が見られる村が出現しました。この時代、要塞や城や城壁が建てられました。そしてキリスト教徒によって奪回されたあと、ムデハル様式の建築として残されました。



世界遺産。セビーリャのカテドラルと、一般にヒラルダと呼ばれる鐘楼、レアレス・アルカーサレス、アルチボ・デ・インディアス総文書館の一带が世界遺産に登録されたことはセビーリャの誇りの一つです。これらのセビーリャの象徴的なモニュメントは、この町でイスラムの芸術的要素とゴシック、ルネッサンス、バロック様式がめまぐるしく交差したことを物語っています。





文化ルート。セビーリャを通るルートには訪れる人たちが豪華なモニュメントと自然界をご覧になれる色々なルートがあります。中でもアルテリアの文化ルートは、平原の中にベティカ・ロマーナやイタリカなどの大きな芸術遺産をかかえた町を通るものや、ワシントン・アーピングのルートもあります。



このようにして大規模のキリスト教教会のうちのひとつであるセビーリャのカテドラルは、ムワッド朝のメスキータの土台の上に建てられたものです。

16世紀のセビーリャは、プエルト・デ・インディアス、つまり新世界からの財宝が入港する港をかかえて最高の栄華を誇っていました。港にはアメリカ大陸からの金銀を満載した船が到着しました。セビーリャで鑄造された金貨や銀貨は、ヨーロッパに持ち出されました。ルネッサンス時代を迎えた





セビーリャには、ヘノバやドイツの金持ちの商人から他人のふところを頼りに生きる人間や抜け目のない人間まで集まるようになりました。

このような状況のもとで独特な輝かしいセビーリャ流バロック様式が形作られカルモナ、マルチェナ、エシハ、オスナなどの荘厳で豪華なスタイルの町が生まれました。

ムセオ・デ・ページヤス・アルテス。国内第二の美術館には14の部屋にゴシック美術から20世紀までの作品が展示されています。中でも16～18世紀のエスクエラ・セビリャーナと呼ばれる画派に属する作品の展示がずば抜けています。美術館の建物は、素足のメルセス会修道院だったところです。



自然とアクティブ・ツーリズム

この地方の自然遺産は、貴重な動植物が生息する二つの自然公園によって代表されます。パルケ・ナトゥラル・デ・ラ・シエラ・ノルテは、県最大の広大な公園で、木々が生い茂る森や闘牛用牛の飼育牧場があります。カタジロワシやクロハゲワシの群れがカスカーダ・デ・ラ・リベラ・デ・ウエスナやセッロ・デル・イエロなどの自然地帯の大空を舞っています。



パルケ・ナトゥラル・デ・ドニャナ自然公園には、松林や変形した沼地や昔沼地をうるおわせていたグアダルキビル川の流れなどが残っています。

地理的条件から、ヨーロッパ最大の自然保護区とみなされているドニャナ国立公園とともにルタス・ミグラトリアス・エウロッパ-アフリカと名づけられたルートに含まれています。

必ず行ってみたいのは、（コリペの）黄褐色ハゲワシの群れが見ものの、ペニョン・デ・サフラマゴン、カニャダ・デ・ロス・パッハロス、プエブラ・デル・リオのデエサ・デ・アバッホ、コレドール・ベルデ・デル・グ



アディマール、ランテフエラ、ウトウレラ、レブリッハラス・カベッサスの湿地帯、ゴスケ、マルティン・デ・ハラ、バドラトサのコルドビージャ、マルパシージョなどです。

ここはアクティブ・ツーリズムの活動に打ってつけのところで、たとえばトレッキング、乗馬、ロッククライミング、カヌー、フィッシング、ハンティング、空中スポーツなどが楽しめます。

セビーリャには必要な設備とインフラが整備したモダンなゴルフ場がありますからゴルフもお楽しみいただけます。

また、セビーリャは内陸部にあるにもかかわらず、へ





ルベス港のおかげで水上スポーツを楽しむ施設も揃っています。

イスラ・マヒカやグアルダスのレセルバ・ナトゥラ・デ・エル・カスティーリョ・デ・ラス・グアルダスなどのテーマパークでもレジャーを楽しく過ごせる設備をそろえています。

料理と祭り

明らかに地中海の影響が見られるセビーリャの郷土料理には、原産地呼称エステパを持つ最高級のオリーブオイルがふんだんに使われます。

モストやワイン、種類が多い果物やフレッシュな野菜、マリスマのお米、豆類、ハチミツ、周辺沿岸部からの新鮮な魚、飼育場で取れる家禽の肉、大物小物の狩猟肉、腸詰類などが食卓をにぎわせます。

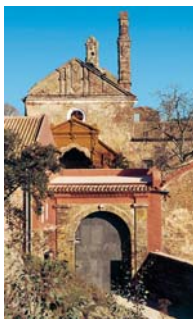
しかし何と言ってもセビーリャを訪れる人たちを魅惑するのは、その楽しくてあけっぴろげの性格でしょう。特にその性格が現れるのはこの地で行われる祭。



荘厳なセマナ・サンタの宗教行列には大勢の人が訪れ、その立派さに目を見晴らせます。春の訪れとともに次に来るのは、クルセス・デ・マヨ、その次はロメリーアス、セビーリャからも多数のエルマンダーがエル・ロシオ村をめがけて巡礼の旅をするのが伝統になっています。そしてその次は数々のフェリアが秋まで延々と続きます。



フラメンコの名所。アントニオ・マイレナ、ペペ・マルチェナ、フェルナンダとベルナルダ・デ・ウトウレラなどの名歌手が出演するポタッヘ・デ・ウトウレラやフェスティバル・デ・カンテ・ホンドなどが開催されます。ルタ・デル・コンパス・デル・トゥレース・ポル・クアトゥロはフラメンコに馴染むためのテーマルートになっています。ムセオ・デル・パイレ・フラメンコ・デ・セビーリャは、フラメンコが貴重な芸術であることを物語っています。



行程

ラ・カンピーニャを通るルートは通り過ぎる村が全部モニュメントだという特徴があります。このルートは、文化ルートのアルテアリア（カルモナ、エシハ、マルチェナ、オスーナ）とベティカ・ロマーナの一部をなしています。

ビア・デ・ラ・プラタは、鉱業、農業、家畜を伝統とする地域で、広い畑や闘牛用牛を飼育する有名な牧場を通ります。このルートの名前の由来は、ローマ時代のイスパニアの主要道路であったことによりますが、現在もカンタブリア海とアンダルシ





アの大西洋沿岸部を結ぶルートになっています。

シエラ・スルは、白い村とペニョン・デ・サフラマゴンやラグナ・サラダ・デル・ゴスケのような自然地帯を指します。テンプラニージョやビア・ベルデなどのルートに含まれていて、アクティブ・ツーリズムには最適です。

シエラ・ノルテの主演は同名の自然公園です。貴重な動物が生息していて、トレッキングやクライミングの愛好者にも好まれています。

エル・アルハラフェではバレンシーナ・デ・ラ・コンセプションや紀元前3世紀にプブリオ・コルネリオ・スキピオ・ローマ将軍によって創設されたイタリカの遺跡など考古学の宝物を見物できます。美味しい郷土料理も楽しめます。

ルタ・デ・グアダルキビル-ドニャナを行くと川ぞいを歩くことができます。ラ・ベガ、ドニャナ（生物圏保護区と世界遺産）、バッホ・グアダルキビルをご覧になれます。

広い稲田の横にはコルティッホと呼ばれる農場があり、アンダルシア産の馬を飼育しています。

アンダルシア州ツーリズムオフィス

Oficina de Turismo de Almería

Parque Nicolás Salmerón, s/n,
Esquina Martínez Campos
C.P. 04001
☎ 950 175 220
Fax: 950 175 221
otalmeria@andalucia.org

Oficina de Turismo de Cádiz

Avda. Ramón de
Carranza, s/n
C.P. 11005
☎ 956 203 191
Fax: 956 203 192
otcadiz@andalucia.org

Oficina de Turismo de Algeciras

C/ Juan de la Cierva, s/n
C.P. 11207
☎ 956 784 131
Fax: 956 784 134
otalgeciras@andalucia.org

Oficina de Turismo de La Línea de la Concepción

Avda. del Ejército,
Esquina 20 de abril
C.P. 11300
☎ 956 784 135
Fax: 956 784 136
otlinea@andalucia.org

Oficina de Turismo de Córdoba

Torrijos, 10
C.P. 14003
☎ 957 355 179
Fax: 957 355 180
otcordoba@andalucia.org

Oficina de Turismo de Granada

Santa Ana, 4 bajo
C.P. 18009
☎ 958 575 202
Fax: 958 575 203
otgranada@andalucia.org

Oficina de Turismo de la Alhambra

Avda. del Generalife, s/n. La
Alhambra
C.P. 18009
☎ 958 544 002
Fax: 958 544 007
otalhambra@andalucia.org

Oficina de Turismo de Guadix

Avda. Mariana Pineda, s/n
C.P. 18500
☎ 958 699 574
Fax: 958 699 573
otguadix@andalucia.org

Oficina de Turismo de Huelva

Plaza Alcalde Coto Mora, 2
C.P. 21001
☎ 959 650 200
Fax: 959 650 201
othuelva@andalucia.org

Oficina de Turismo de Jaén

Ramón y Cajal, 4
Edificio Almansa
C.P. 23001
☎ 953 313 281
Fax: 953 313 283
otjaen@andalucia.org

Oficina de Turismo de Baeza

Plaza del Pópulo, s/n
C.P. 23440
☎ 953 779 982
Fax: 953 779 983
otbaeza@andalucia.org

Oficina de Turismo de Úbeda

Baja del Marqués, 4. Palacio
del Marqués de Contadero
C.P. 23400
☎ 953 779 204
Fax: 953 779 206
otubeda@andalucia.org

Oficina de Turismo de Málaga

Pasaje de Chinitas, 4
C.P. 29015
☎ 951 308 911
Fax: 951 308 912
otmalaga@andalucia.org

Oficina de Turismo de Málaga Aeropuerto

Aeropuerto Internacional de
Málaga. Terminal de Llegadas
C.P. 29006
☎ 951 294 003
Fax: 951 294 006
otaemalaga@andalucia.org

Oficina de Turismo de Ronda

Plaza de España, 9
C.P. 29400
☎ 952 169 311
Fax: 952 169 314
otronda@andalucia.org

Oficina de Turismo de Sevilla

Avda. de la Constitución, 21B
C.P. 41004
☎ 954 787 578
Fax: 954 787 579
otsevilla@andalucia.org

Oficina de Turismo de Sevilla

Estación de Santa Justa
Avda. Kansas City, s/n.
Estación de Santa Justa
C.P. 41007
☎ 954 782 002
Fax: 954 822 021
otjusta@andalucia.org

Oficina de Turismo de Sevilla Aeropuerto

Autopista de San Pablo, s/n.
Terminal de Llegadas.
C.P. 41020
☎ 954 782 035
Fax: 954 782 034
otaesevilla@andalucia.org

観光局

Patronato provincial de Turismo de Almería

Plaza Bendicho, s/n
C.P 04011
☎ 950 621 117
Fax: 950 267 545
turismo@dipalme.org
www.almeria-turismo.org

Patronato provincial de Turismo de Cádiz

Plaza de Madrid, s/n. Estadio
Ramón de Carranza. Fondo Sur
C.P 11011
☎ 956 807 061
Fax: 956 214 635
turismo@dipucadiz.es
www.cadizturismo.com

Patronato provincial de Turismo de Córdoba

Plaza de las Tendillas, 5 3ª planta
C.P 14002
☎ 957 491 677
Fax: 957 492 061
turismo@cordobaturismo.es
www.cordobaturismo.es

Patronato provincial de Turismo de Granada

Plaza Mariana Pineda, 10 1º y 2º
C.P 18009
☎ 958 247 146
Fax: 958 247 129
turismo@dipgra.es
www.turgranada.es

Patronato provincial de Turismo de Huelva

Fernando el Católico, 18
entreplanta
C.P 21002
☎ 959 257 467
Fax: 959 249 646
turismo@diphuelva.es
www.turismohuelva.org

Patronato provincial de Turismo de Jaén

Plaza de San Francisco, 2.
Palacio Provincial
C.P 23071
☎ 953 248 000
Fax: 953 248 064
turismo@promojaen.es
www.promojaen.es

Patronato provincial de Turismo de la Costa del Sol

Plaza del Siglo, 2
C.P 29015
☎ 952 126 272
Fax: 952 225 207
info@visitacostadelsol.com
www.visitacostadelsol.com

Turismo de la Provincia de Sevilla

Plaza del Triunfo, 1-3. Antiguo
Archivo Provincial
C.P 41004
☎ 954 501 001
Fax: 954 500 898
infoturismo@prodetur.es
www.turismosevilla.org



Andalucía

www.andalucia.org

JUNTA DE ANDALUCÍA
Consejería de Turismo, Comercio y Deporte
Turismo Andaluz S.A.
Calle Compañía, 40
29008 Málaga

